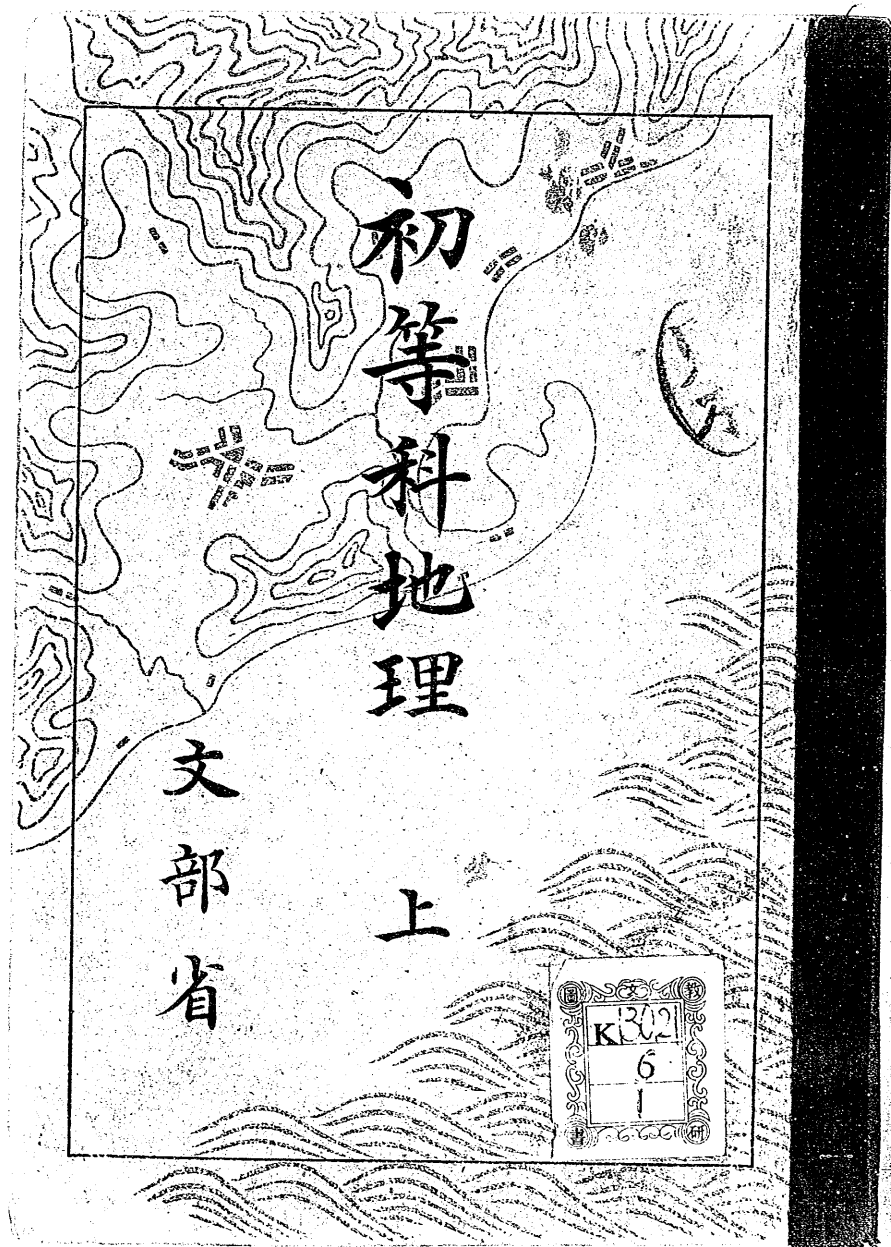




6

D 24



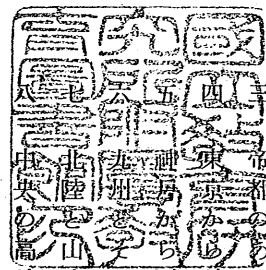
初等科地理 上

文部省

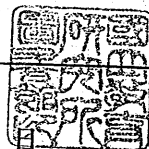
246
文部省
18
3
12

目録

一	日本の地圖	一
二	本州四國九州	九
	帝都のある關東平野	十九
	東京から神戸まで	三十八
	神戶から下關まで	六十六
	九州とその島々	七十九
	北國と山陰	九十二
	由良の島地	百二
九	東京から青森まで	百八
十	北海道と樺太	百十九
十一	朝鮮と關東州	百三十二
十二	臺灣と南洋群島	百四十五



一 日本の地圖



本の地圖をひらいて見ませう。

まづ私たちの住んでゐる郷土が、どのへんにあるかをしらべませう。さうして、それが日本全體から見て、北の方にあるか、西の方にあるか、また真中どころにあるかなどに注意しませう。さうすれば、しぜんと日本全體の形が、どんなふうになつてゐるかがはつきりして來るでせう。

太平洋上、北東から南西へかけて長く連なつてゐる島々が、日本列島で、大きな島や、小さな島が並んでゐます。大きな島にはどんな島があるか、またそのうちでもいちばん大きな島は、どれであるかをしらべてみなさい。いちばん大きな島は本州で、それが日本

列島のちやうど眞中になつてゐることに氣がつくでせう。本州の北には北海道本島があるし、本州の西に九州島があります。また、北海道本島から北東へ向かつて千島列島があるし、九州島と臺灣との間には琉球列島があります。

北の千島列島、中央の本州、南の琉球列島が、それぞれ太平洋へ向かつて弓なりに張り出してゐるぐあひは、日本列島全體をぐつと引きしめてゐるやうで、かゝした形から、われわれは何かしら強い力がこもつてゐるやうに感じます。

どうみても、日本列島はいはばんな形ではありません。アジア大陸の前面に立つて、太平洋へ向かつてををしく進むすがたが想像されるとともに、また太平洋に對して大陸を守る役目をしてゐるやうにも考へられます。

次に、日本列島とアジア大陸との間にある海と、海峡とをしらべませう。

オホーツク海と日本海との境になつてゐる樺太は、間宮海峡をへだててシベリヤに近く、千島列島の北端は、千島海峡によつてカムチャツカ半島に向かひ合つてゐます。

日本海と東支那海の間にある朝鮮半島は、滿洲と地續きで、ちやうどわが本土と大陸との間にかけられた橋のやうに、昔からわが國と大陸とを結ぶ大切な通路になつてゐます。従つて、半島の南にある朝鮮海峡は、わが國と大陸とのれんらく上特に大切であります。

朝鮮半島の西の黄海に面した關東州もまた、大陸への一つの入口であります。

臺灣は、臺灣海峡をへだてて支那に近いところにあります。この海峡は、わが國から南洋やヨーロッパなどへ行く船の通る道として大切なところで、これを通ると南支那海で、この海に新南群島があります。

これらの海や海峡は、日本列島中大きな島々の間にある海峡とともに、交通上また國防上、非常に大切なことに注意しなければなりません。

わが國土が大陸に近い位置にあるといふことは、わが國と大陸とのいろいろな關係を考へる上に、たいへん意味のあることです。歴史が物語るやうに、古來わが國は、交通や文化の上に大陸と深い關係をもつてゐたし、また今後ますます國民が大陸の諸地方に發展するのに、都合のよい立場にあるのです。

もしわが國土が大陸から遠くはなれたはなれ島であつたら、大陸とかやうな深い關係は結ばれなかつたでせう。この古い緣故のある東亞の大陸は、今やわれわれの前に、新しい活動の天地として開けて來ました。

そこで次に、日本を中心とした廣い大東亞の地圖を、ひらいて見ませう。

日本列島の外側は、世界でいちばん大きな海の太平洋です。本州の中央から南の方へ、伊豆七島、小笠原群島が連なつてゐて、遠くわが南洋群島に續いてゐます。この群島は、無數の小島が砂をまきちらしたやうに、西太平洋上にちらばつてゐます。ごく小さな島々ではあります、廣い海面にちらばつてゐるので、わが國の海のまもりから見ても非常に大切なところであります。

わが南洋群島の西から南にかけて、赤道を中心、ルソン・ミンダナオ・ボルネオ・スマトラ・ジャワ・セレベス・パプアなどをはじめ、大小さまざまな島の一群があります。みんな熱帯の島で、ボルネオやパプアは、日本全體よりも大きな島です。

大東亞戦争が起つて、これらの熱帯の島々の大部分は、インド支那半島のマライやビルマなどとともに、わが皇軍の占領するところとなりました。ビルマに續いてインドがあり、皇軍の活躍は西へのびてインド洋に廣がり、南へくだつて濠洲に及んでゐます。

濠洲の東には、南太平洋の廣い海面にわたつて、たくさんの島々がちらばつてゐます。ニューギランドのやうな大きな島もありますが、たいていは小さな島々で、ちやうどアメリカ合衆國から濠洲にいたる道すちに當つてゐます。赤道の北にハワイ諸島があり、それはほぼ太平洋の眞中どころで、交通上また軍事上すぐれた位置を占めてゐます。

太平洋を東に越えると、北アメリカと南アメリカの二大陸がたてに並んで、太平洋と大西洋とをへだててゐます。この二大洋をつなぐ通路として、パナマ運河は非常に大切な役目をもつてゐます。

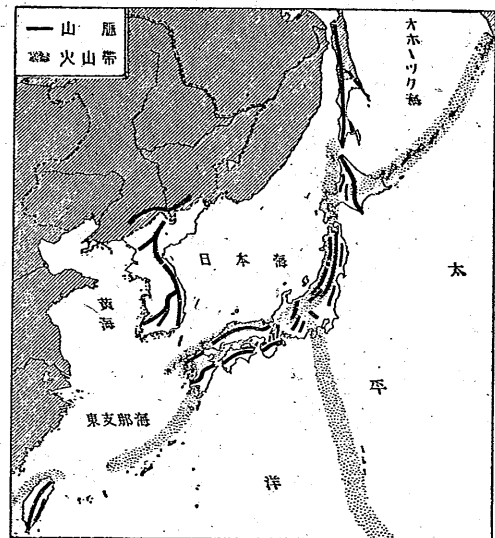
私たちは、日本を中心として、太平洋の諸地方をひととほり地圖によつて見渡しました。そのうちで、アメリカ大陸をのぞいた他の地方は、大體今日大東亞とよばれてゐる地域のうちにはゐるのです。

大東亞がどんなに廣いか、また日本から見てどんなぐあひにひろがつてゐるかをよく注意しませう。

さうして、もう一度わが國土のすがたを見つめませう。
神代の昔から、海の魂たまひによつてはぐくまれ、また大陸に近く接して、そのあらゆる文化をとり入れて來たわが國は、海に陸にのびて行く使命しめいをはたすにふさはしい位置を占め、その形ものびのびと、四方に向かつて手足をのびして進むやうすをあらはしてゐます。かやうに位置といひ、形といひ、たぐひない國土に恵まれたわが日本は、まことに神の生み給うた國であることを、つくづくと感じるのであります。

わが國の面積は約六十八萬平方キロで、そこに一億の人々が住んでゐます。面積にくらべて人口の多いこと、人口のふえるわりあひの大きいことは、世界でもまれであり、このことからわかれわかれは、國の力があふれてゐることを思つて心強いかがりです。

二 本州・四國・九州



日本の山脈の略圖

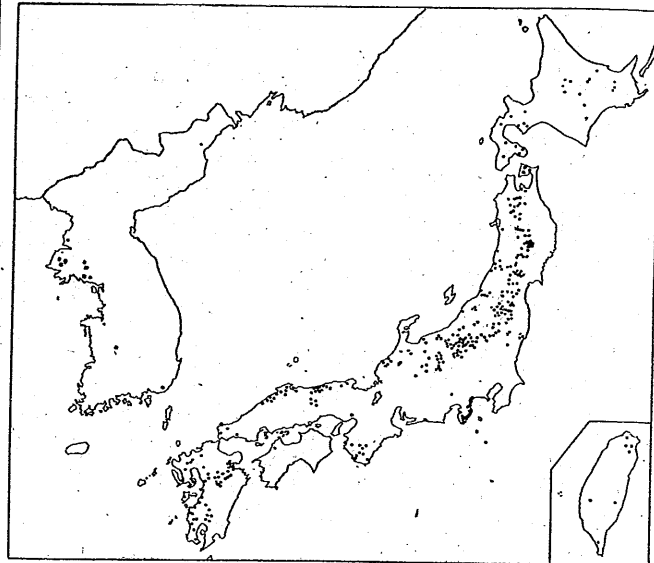
日本列島の島々のうちでいちばん大きな本州は、日本全體の面積の三分の一ぐらゐあつて、位置もちやうど眞中まんなかどころに當つてゐます。四國と九州とは、本州の西にくつついたやうな島ですから、この三つの島を一かたまりとして見ることが出来ます。

日本列島の島々には、せbeneのやうな山脈が眞中を通

つてゐます。本州でも、やはりその島の形なりに、中央から北では南北へ、西では東西へ、山脈が通つてゐますが、その西の端は、北九州の山脈に續いてゐます。それにもう一すぢ、本州の中央から分れて紀伊半島を通り、四國を経て、九州のなかほどをななめに横ぎつてゐる山脈があります。本州の中央は、これらの山脈が集つて、土地がいちばん高くなつてゐるばかりでなく、また島の幅もいちばん廣くなつてゐます。

日本列島には、このせぼねのやうな山脈に沿つた火山帯があります。また別に、本州の中央から伊豆七島、小笠原群島に續く火山帯もあつて、火山がいたるところにそびえてゐます。

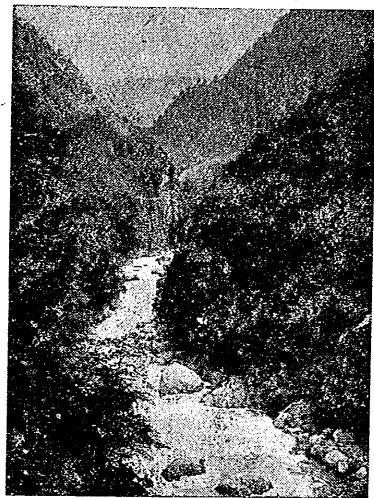
上がとがつて、ふもとになだらかなすそ野を引く火山のすがたは、日本各地の景色を美しく引き立ててゐます。富士はその代表



温泉の分布

的な山であります。また、浅間山や阿蘇山のやうに、絶えず煙を吐いてゐる火山も少なくありません。わが國は、世界でも有名な火山國で、火山にとりなつて温泉もたくさんありますし、また地震も多い國であります。

本州の主な川々は、せぼねの山脈を境にして、太平洋に注ぐものと、日本海に



注ぐものとがあります。山地が多いので、どの川も大體流れが早く、川の上流や中流といへば、青々と木の茂つた谷合ひを、きれいな水が勢よく流れてゐるのがふつうです。その谷合ひに、せまい平地や、やや廣い盆地

地があります。

川の下流になると、兩側に廣い平野があります。廣いといつても、満洲や支那などにあるやうな大きなものではありません。

本州の太平洋側では、利根川の流れを中心とする關東平野や、木曾川の下流にある濃尾平野や、淀川の下流にある大阪平野、また日

本海側では、信濃川の下流にある越後平野が、平野の主なものですが、九州の筑後川に沿うた筑紫平野も、かなり廣い平野です。



海岸

海岸に沿うた、幅のせまい平野も各地に見られますが、土地が山がちですから、山が海にせまつて、小船を寄せる平地のない海岸もたくさんあります。海にのぞんで切り立つた岩山のすそに小島のちらばつてゐるのと、松林の續く砂濱に波のくだけるのは、日本の海岸風景の特色といつてよいでせう。

海岸線の出入と島の多いところは、九州と瀬戸内海の沿岸で、朝鮮半島の南の

海岸とともに、島や灣のいちばん多いところだ。

紀伊・伊豆・房總などの半島は、太平洋側の主な半島で、能登半島は、あまり大きな出入のない日本海の沿岸で、特に目にたつ半島だ。

本州・四國・九州は、わが國でも氣候のいちばんよいところだ。

本州の北東部には、冬かなり寒いところもありますが、その他の地方は寒さも知れたものです。殊に、本州中央の太平洋沿岸から四國・九州にかけては、眞冬にも暖い日光をあびながら、らくに野外で働くことができます。

ただ、本州の日本海沿岸の冬は、海の方から吹きつける北西季節風のために、盛んに雪が降り、野も山も深い雪におほはれて、交通にもたいへんなんぎをすることがあります。この點、太平洋沿岸とは、いちじるしいちがひですが、これは主に、太平洋側と日本海側とを分けるせぼねの山脈が、北西風の運ぶ濕氣をさへぎる役目をしてゐるからです。

夏の盛りには、さうたう暑い日が続きます。盆地や、平野の眞中あたりなどは特にさうですが、しかし海にかこまれた島國ですから、涼しい海風が、よほど暑さをやはらげてくれます。本州・四國・九州の南海岸が、夏特に雨が多いのは、南東季節風が太平洋から濕氣を吹き送るためです。夏、雨の多い本州の太平洋側と、冬、雪の多い日本海側とは、かうした氣候のちがひにつれて、いろいろなちがひが見られます。

山にかこまれた瀬戸内海の沿岸は、北の中國山脈、南の四國山脈によつて、日本海や太平洋の方から来る濕氣がさへぎられるので、雨が少く晴天の日が続きます。

日本列島の島々は、海岸の平野をのぞけば内部は大體が山がちですから、主な交通路は、昔から海岸に沿うてゐるところが多く、本州・四國・九州では、そのやうすが特によくわかります。

東京が江戸と呼ばれたころ、東海道五十三次といつて有名であつた江戸と京都の間の街道も、できるだけ山地をよけて海岸の平野を通つてゐます。今も、あちこち残つてゐるそのころの松並木を見ると、昔の旅のさまがしのばれます。



東海道の松並木



では、大體この街道に沿うてゐるのです。さうしてわが國の特に大きな都市が、すべてこの鐵道に沿うてゐるのを見て、この線が、交通上大切であることがよくわかるのでせう。

昔 瀬戸内海の沿岸を通つてゐた山陽道も、同じやうに海岸づたひで、これも今の山陽本線とよく一致してゐます。また、日本海沿岸の北陸・山陰の街道も、やはり海岸に沿つてゐるのです。山陰本線の鐵道は、それぞれこの道すぢを

東京・青森間の鐵道では、東北本線は阿武隈川や北上川の谷を通

り、奥羽本線はいくつかの盆地を通るので、大部分海岸ぞひではありませんが、これらも昔からの街道とよく一致してゐます。し、常磐線は、關東平野から北の方は太平洋岸を通つてゐて、これも古い街道すぢにあたつてゐます。

内部の山地を横ぎつて、太平洋側と日本海側とをつなぐ鐵道は、開通もおそく、しかも主な鐵道線は少いのです。四國でも主な鐵道は、瀬戸内海の沿岸にありますし、また九州を一周してゐる主な鐵道も、大部分、海岸に沿うてゐます。

三 帝都のある關東平野

關東平野は、わが國でいちばん大きな平野です。平野の少いわが國では、それがめづらしく大きいこと、その位置が本州のほぼ中央に當つてゐること、さうしてそこに帝都東京があることが、この平野について最も大切な點です。東京と關東平野とは、どうしても切りはなして考へることができません。東京を中心として、鐵道や電車が平野の四方へのび、またそれらの線をれんらくする線があつて、ちやうど、くもの巢を張りめぐらしたやうになつてゐます。これを見ても、東京とこの平野とが、どんなに深い關係があるかがわかるでせう。これほど交通が發達してゐるのは、東京や横濱のやうな大都市があるからではあります。また、平野といふも

のが、道路や鐵道を敷くのに便利であるからであります。

東京には、七百萬といふたくさんの人々が住んでゐますから、いろいろな品物が、全國から集ります。とりわけ東京の近くでできるものは、送るのに便利ですから、この平野にいろいろな産業が發達することになります。都會向きの野菜の栽培が、東京の近くで盛んに行はれるのは、その一つの例であります。

榮えゆく帝都のまはりに、かうした廣い平野をひかへてゐることは、まことに意味のあることです。

關東平野とまはりの山地 東京の西の郊外へ出て、武藏野の小高いところに登ると、見渡すかぎり廣々とした關東平野が、目の前に開けます。平野といつても、このへんは、どこまでも水田が続くといつたふうには、ごく平らではありません。表面のゆるやかに起伏する

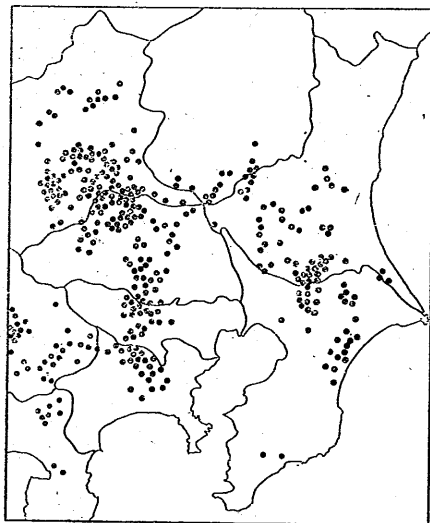
臺地が、いたるところにあつて、その間を流れる川のへりに水田があります。よく晴れた日なら、遠く西から北に、この平野をかざる山々を望むことができます。西には、わりあひに近く、箱根からずつと北に續く山々が見え、その間にすつきりと、上半身をあらはした富士のすがたが美しく見られます。北には、遙かに榛名や、赤城や、日光の山々も見えます。

北東の筑波は、平野の中にぽつんとそびえてゐるので、遠いながらも目につく山です。また南には、右手に伊豆、左手に房總の山々を望み、見ることができます。

富士と筑波は、關東平野にはつきものの山で、江戸の名所の繪にも、この二つの山がきつとかきそへてあるほどです。

前にも述べたやうに、關東平野は、臺地と川の沿岸の低地とが入

りまじつてゐますが、荒川を越えて利根川の沿岸になると、だんだん低地が廣くなり、臺地はきれぎれになります。低地は大部分が水田で、臺地には畠が續きます。關東平野が、わが國でいちばん多く麥を産するの、かうした廣い畠があるからであり、またさつま



關東平野の桑畠の分布

いものが多くとれるのも、そのためです。

武蔵野を西へ行くと、山のふもとに近づくにつれて桑畠が多くなり、見渡すかぎりそれが續きます。關東平野の西部から北西部にかけての山麓地帯では、いたるところ

ろ養蠶業が行はれ、従つて製絲業絹織物業もまた盛んです。前橋・高崎・富岡・熊谷などは製絲業の中心地であり、桐生・足利・伊勢崎・八王子などは絹織物の産地です。

これらの都市やその附近には、最近いろいろな工場が新しくできて、いよいよ活氣を見せてゐます。

また關東平野の北東部と南西部には、たばこの栽培が行はれ、わが國でも主な葉たばこの産地となつてゐます。

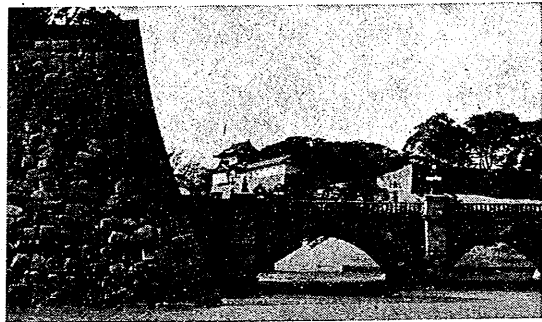
平野が廣いだけに、米もたくさん取れます。しかし、東京横濱のやうな大都市をはじめ、平野の各地に都市があつて、わが國でもいちばん人口の密なところですから、この地方の米だけでは足りません。従つて東京には、他の地方からたくさんの米が集ります。

關東平野の北から西へ續いてそびえてゐる高い山々は、冬、日本

海方面から来る濕氣をさへぎる役目をしてゐます。それで山地の北側は、冬中雪が深く積つてゐるのに、せなか合せの關東平野は、雪もまれで暖かです。東京から上越線で新潟方面へ、冬旅行する人は、清水トンネルあたりを境に、南と北の氣候がすっかりちがつてゐるのでびつくりします。關東平野でも、南の相模灣の岸や房總半島の沿岸などは、近く暖流の流れる海に面してゐるので、いつも暖かです。

しかし、山地を越して来る冬の北西風は、平野の方へ強く吹きおろして來ます。濕氣を失つた空つ風が、平野の北ほど強く吹きまゐります。東京でも武藏野の土煙をあげて吹いて来る風は、めづらしくありません。

冬は天氣がよく、夏は南東季節風が濕氣を運んで雨の多い關東平野は、農業が盛んであり、交通の便利なことと相まつて、いろいろな産業が発達するのです。



宮 城

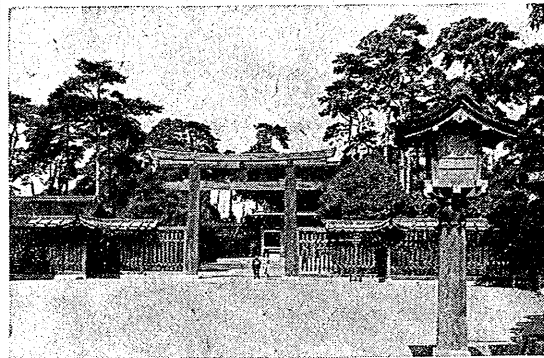
東京とその附近 帝都である東京は、約七百萬の人口があつて、世界でも一、二を爭ふ大きな都市です。東京灣に注ぐ荒川下流の低地から、武藏野の臺地の上にわたつてひろがつてゐる町ですから、低地にある下町と、臺地にある山手とに大別され、また下町・山手をつなぐ坂の町も多いのです。

宮城は、市の中心にあります。近く九段坂の上には靖國神社があり、また明治神宮は、宮城からずつと西の方にあつて、木立深

い神域は市内とは思へない静けさです。宮城の附近には議事堂や、官廳や、東京驛その他銀行會社などの大きな建物が集つてゐるま

す。その外側にある下町はにぎやかな商店街であり、山手方面は主に住宅地となつて發達してゐます。

荒川の下流を隅田川といひ、その沿岸から東京灣に沿ふ埋立地にかけては、大きな工場や倉庫の立ち並んだ工業地帯があります。この地帯は、さらに南へのびて川崎・横濱に續き、京濱工業地帯をなしてゐます。煙突の煙、機械の響きの絶えないこの京濱工業地帯こそは、わが國



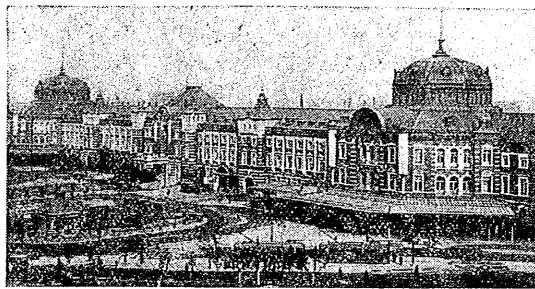
明治神宮

工業の一大中心であり、その發展はまことに目ざましいものがあります。この工業の發展に應じて、東京港は港の設備をととのへ、横濱港とともに京濱港の一部として、貿易のために新しく開かれることになりました。横濱港とをれんらくする京濱運河も、やがて開通するであります。

隅田川を中心とする下町方面には、川や堀や運河がいたるところにあつて、荷物を運ぶ小船が、倉庫の並んだ川岸にたくさん集つてゐます。川や堀が多いだに、どこへ行つても橋があり、とりわけ隅田川には、一つ一つ形のちがつた美しい橋がいくつもかかつてゐて、その下を、のぼりくだりの船がにぎやかに往來してゐます。隅田川が東京の名所であることは、今も昔もかはりませんが、そのほか市内には、名所舊蹟がたくさんあります。

東京にはあらゆる學校があり、また大きな博物館や圖書館があり、わが國學問の中心地として、圖書の出版の盛んなこともわが國第一であります。

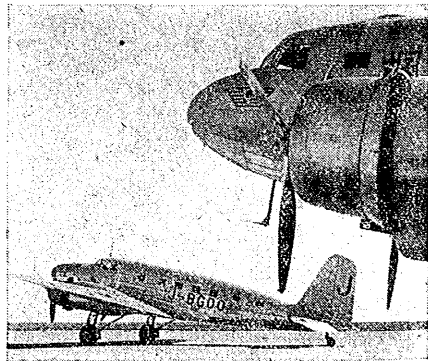
東京はもと江戸といひ、徳川氏の幕府があつて繁昌したところですから、そのころからすでに陸上の交通も發達し、主な街道が四方へ通じてゐました。今日では、東海道本線を始め、中央本線、東北本線、常磐線など、わが國の主な鐵道の起點となつてゐます。その上、郊外へ出る電車の便利がよく、従つて附近の町々は、東京と切つても切れない關係をもつて、どしどし發達して行くのです。



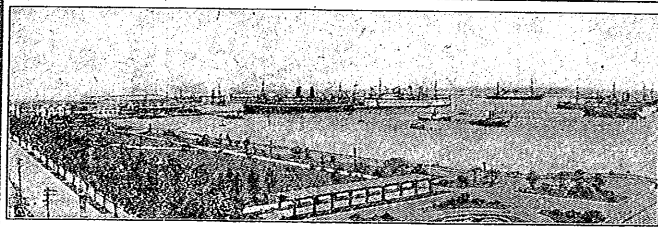
東京驛

東京はまた、わが國の航空路の中心であり、多摩川の川口にある羽田の飛行場を起點として、滿洲や支那や南方の諸地方へ、定期航空路が開かれてゐます。

横濱は、神戸、大阪とともにわが國の三大貿易港の一つで、港の設備がよくととのひ、太平洋やインド洋を往來する大きな汽船が自由に出入してゐます。東京に近く、その間の交通が便利ですから、いはば東京の港として利用されたことが、この港の大きく發展するものとなつたのです。明治時代になるつひ、前、外國貿易のために開港されるまでは、ほんのさびしい漁村であつたのが、今では人口約百萬の大都市となりまし



旅客飛行機



港 濱 横

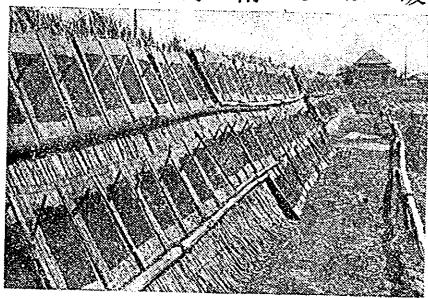
た。横濱には水上飛行場があつて、わが南洋群島その他へ、航空路を通じてゐます。

東京と横濱との間にある川崎は、ちやうど京濱工業地帯の真中に當つてゐるので、近年すばらしく發達し、小さな町から、急に人口がふえて、今ではその數三十萬の工業都市となりました。かうして東京、川崎、横濱は、ほとんど町續きとなつてしまひました。

多摩川の川口附近や東京灣の東岸では、淺瀬を利用してのりの養殖が盛んです。もとは東京の海岸でも、行はれ、のりは昔から東京の名産であります。東京から東の方、千葉附近にかけての東京

灣岸も、交通が便利となるにつれて都市が發達し、近時、工業が興つてゐます。

東京の西、中央本線に沿ふ淺川には、大正天皇の御陵があります。三浦房總の二半島は氣候がよく、特に冬、暖かです。から、休養保健のために東京から出かける人がたくさんあつて、そのために發達した町も少くありません。この二半島及び附近は、かうした氣候に恵まれてゐますから、野菜や草花が盛んに作られ、またびはや梨などの果物もできて、いづれも主に東京の市場へ送られます。冬でも、戸外に美しく咲いてゐる草花を見ることが出来ます。



の り 乾 場

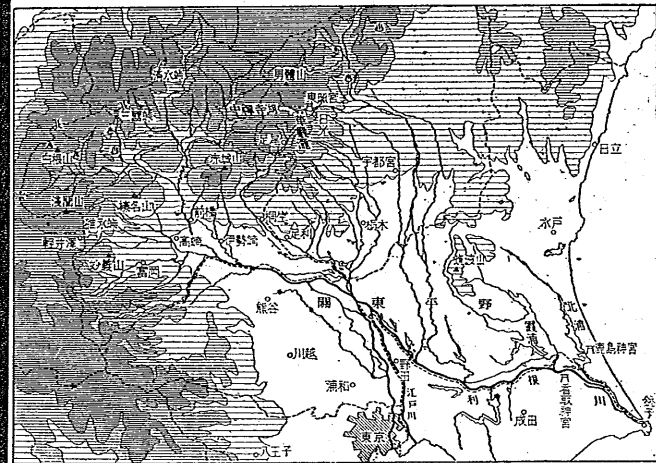
三浦半島の東岸にある横須賀は、名高い軍港です。東京灣の入口を扼して、東京の防備上大切な位置を占め、東京との交通もまたたいそう便利であります。相模灣岸の鎌倉は、三面に山をめぐらし、南に海をひかへたところで、この要害をえらんで、七百五十年の昔鎌倉幕府が開かれたのです。名高い神社や寺院が多く、いたるところ史蹟があつて、見るもの聞くものが歴史をしのばせます。平塚附近には、近時、工業が興つてゐます。

利根川 利根川は、關東平野を流れて太平洋に注ぐ大きな川です。長さでは信濃川におよばないし、朝鮮にはもつと長い川がいくつもありますが、多くの支流を集めて廣い平野をゆつたりと流れてゐるこの川には、たしかに大河のおもむきがそなはつてゐます。

この川は、關東平野の北にそびえてゐる山地の奥深い谷に發して、平野の眞中をななめに横ぎり、やがて東へ流れるのですが、その間、あちこちから注ぎこむたくさんの支流や、下流地方にある大小の湖沼は、いはば利根川の引きつれる一族とも見なすことができます。

利根上流の谷々をさかのぼり、やがて山を越えるいくつもの峠道では、碓氷峠とか清水峠とか、昔から有名なものがあります。急な坂を登るので、そこからそこに通じてゐる鐵道にはたくさんのトンネルがあり、中でも上越線の清水トンネルは、長いことにおいてわが國第一であります。また信越本線が碓氷峠を越えるところには、アプト式といつて線路に齒止めが仕組んであります。

利根上流の山地には、那須火山帯が通つてゐますから、淺間、榛名



利根川

赤城・男體・那須など、たくさんの火山があり、温泉が各地にわき出ます。中でも、伊香保・塩原などはよく知られた温泉です。浅間山はたびたび爆発をするので、火山としても有名な山です。頂上から絶えず立ちのぼる煙は、遠くからでも見るができます。ふもとにある軽井澤は、土地の高い高原で、夏涼しく、暑さをしのぐに適してゐます。

男體山を中心に、多くの火山の

集つてゐる日光には、中禪寺湖や華嚴瀧などがあつて景色がよく、その上、東照宮の美しい社殿があつて世界に有名です。近くの足尾には大きな鑛山があり、銅の製錬を第一に、金や銀も産出します。利根川の上流は、本流も支流も、岩にくだけうづを巻く急流です。から、最もよく水力發電に利用され、その電氣は主に東京へ送られます。この川が平野へ出ると、急に水勢がゆるやかになり、廣い河



華嚴瀧

原を作つて、田や畠の間をゆつくりと流れます。沿岸には村や町が多く、道路や鐵道が、岸に沿ひ川を横ぎつて四方に通じ、車馬の往來がにぎやかです。昔は川船が盛んに上下し、人や荷物を運び、川岸の所々に港

が發達して、その水運は、もつぱら關東平野の交通上大切でありましたが、鐵道や自動車の

便がよくなつた今日では、下流地方のぞくほか、あまり利用されなくなり神ました。

鹿島 下流へ行くにつれて、川幅は廣くなり水量は豊かになつて、霞浦その他の湖沼と水路が續き、大小の運河がまた沿岸の低地を網の目のやうにぬつて、そのへ



利根川の下流

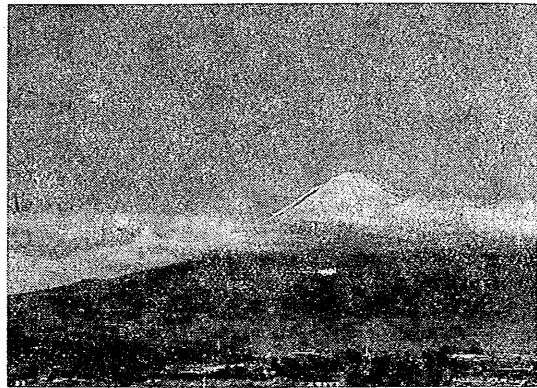
ん一帯どこを見ても水ばかりになります。いたるところ船の利用されるこのあたりでは、船が車や馬の役をしてゐるわけです。霞浦は平野にある大きな湖ですが、平野の中の大きな湖は、わが國にはごくまれで、霞浦は、いかにも利根川にふさはしい湖です。北に近く筑波山がそびえて、湖岸の景色に變化を與へてゐます。利根川の下流には、武勇の神として、有名な鹿島神宮、香取神宮のおごそかな社殿があつて、國民に深く敬はれてゐます。成田には不動尊があつて、參詣する者が多く集ります。

利根川の川口にある銚子は、漁港として知られ、また江戸川沿岸の野田とともに、醤油の製造がたいそう盛んであります。

四 東京から神戸まで

東京から神戸へ行く東海道本線は、わが國鐵道の幹線中でも特に多く利用され、いはば幹線の代表とも見られます。沿線はいたるところ産業が盛んで、大きな都市が發達し、人口もわが國でいちばん密度の高いところです。東海道本線を走る汽車の窓から、移り行く景色を眺めて、その美しさを樂しむとともに、なほ産業交通、都市などのやうすについても、いろいろ學ぶことができるのです。

富士と箱根 東海道本線によつて東京から神戸へ行く途中で、たれでもいちばん心を引かれるのは富士山でせう。富士山は、さるぶん遠くから見える山であり、見る場所によつてそれぞれのおもむきがありますが、駿河灣の沿岸では、すそ野から頂上までの全體



のすがたを、近く仰ぎ見ることができません。私たちは、富士山を見てただ美しい山だと感じるだけではなく、何と

士もいへない氣高
さ、尊さをおぼえ
ます。富士を靈
峯とよぶのは、日
本人のこの氣も
ちを最もよくあらはしてゐると



箱根火山の地形

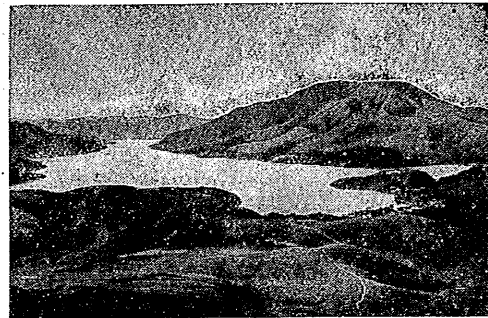
思はれます。

富士に近い箱根も有名な火山で、ともに富

土火山帯に當つてゐます。箱根には火山にともなふいろいろな地形が見られ、美しい景色に變化を與へてゐます。また行く先々に温泉があるし、史蹟もあつて、たづねる人が特に多いのです。箱

根は昔の東海道の旅で、いちばんの難所とされたところで、そのけはしい山道と、蘆湖の岸にあつた關所とは、有名なものでした。昔から小田原と三島とが東西の登山口で、今では小田原から、東海道本線にれんらくする登山電車が通じてゐます。

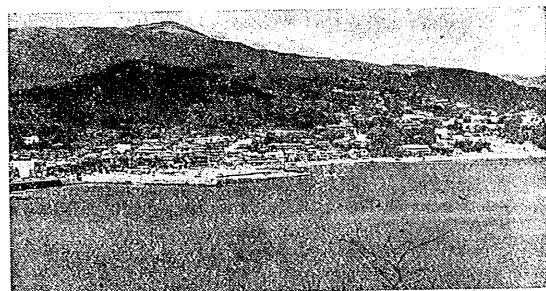
箱根の山地は、南へのびて伊豆半島にはいつてゐますが、この半島にも各地に火山があり、また熱海・修善寺を始め、たくさん



温泉があります。すべてこれらは、富士火山帯の通つてゐるところです。なほこの半島の東の海上に、煙を吐いてそびえてゐる大島の三原山を始め、伊豆七島の島山もこの火山帯に當る火山で、それらは、時々爆發することがあります。

富士火山帯はさらに南へのびて、父島・母島などのある小笠原群島へ續いてゐます。

伊豆七島・小笠原群島は、いづれも東京府に屬してゐますが、位置がずっと南にある上、暖流が流れてゐるので、たいそう暖かです。殊に、小笠原群島には熱帯の植物が茂り、さとうきび・バナナ・パイナップルなどを産し、また近

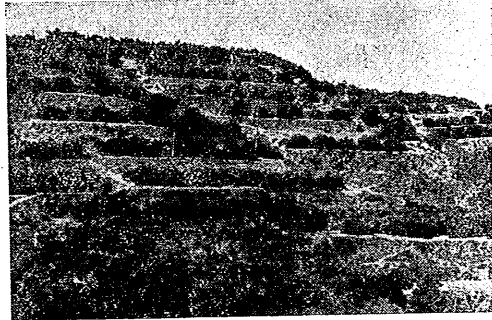


熱 海

年は、いろいろな野菜類が盛んに作られます。気温が高く、野菜は季節よりも早くできるので、東京方面へ送られます。

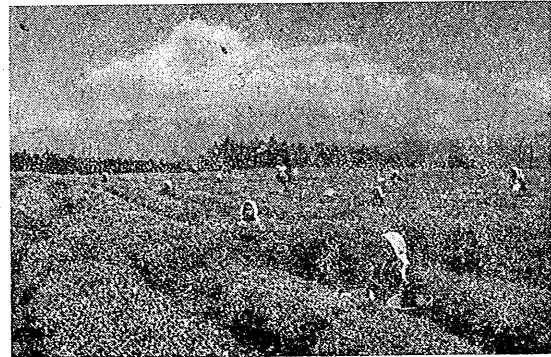
伊豆七島、小笠原群島は、わが本土から南の方太平洋上に長く連なる島々で、軍事上きはめて大切なところですが、また本土と南洋群島とをれんらくする交通からいつても、だいじなところで、父島の二見港は、この方面でいちばんよい港です。

みかん山と茶島 伊豆半島の北部から駿河湾の沿岸には、いたるところにみかん山があります。山や岡の傾斜地を切り開いた段段島に、青々としたみかんの木が茂りあつてゐます。冬の初めごろになると、色づいた鈴なりのみかんが、畠を黄色に色どつて、いっそう美しく目にたちます。そのころからこのあたりの驛では、各地へ送り出すみかんの箱が山と積まれるのが見られ、またみやげ



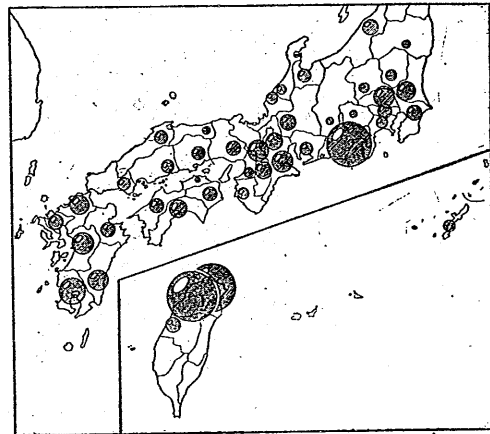
としてのみかんを驛々で賣つてゐます。清水の港から外國へも積み出されます。静岡縣は、西の和歌山縣とともに、わが國でいちばん多くみかんを産するところですが、

また、駿河湾の



茶 品

岸から濱名湖附近にいたる間は、茶の栽培のたいそう盛んなところで、山のふもと、の傾斜地や岡の上などは、どこもかし



茶 畠 の 分 布

こも茶畠です。特に大井川の下流あたりがその中心地で、廣い岡の上は見渡すかぎり茶畠が續き、きれいに刈りこんだ茶の木がきちんと並んでゐます。富士にまだ雪の白く残つてゐる春の茶摘時になると、この茶畠もにぎやかです。そこで製茶業はこのへん各地で行はれ、静岡縣は、内地の茶の産額の半分以上を出してゐます。静岡は製茶の中心地で、大きな工場がいくつもあり、茶の取引も盛んで、いはば茶の町といつてよいでせう。

茶やみかんの栽培の盛んな駿河灣の沿岸から、濱名湖附近にか

けての地方、及びその西の名古屋との間には、沼津・清水・静岡・濱松・豊橋・岡崎などのおもだつた都市があり、それらの都市及び附近には、いろいろな工業が興つて、ずるぶん活氣を示してゐます。この地方は、東の京濱と、西の名古屋と、二大工業地のちやうど中間に當り、しかも交通の便利なところで、いはば兩方の工業地からさしのべられた手が、このへんでつなぎ合はされてゐるといつた感があります。

濱名湖は景色がよく、魚類の養殖が盛んです。濱名湖から西へ豊橋・岡崎をすぎると、やがて行く手に濃尾平野が廣々と開けます。濃尾平野と伊勢海、木曾川の下流から、知多半島附近にかけての廣い平野が濃尾平野で、三面は山地にかこまれ、南の方は伊勢海に開いてゐます。この平野は、木曾川の川口附近を越えて伊勢海の西

岸にある伊勢平野に續いてゐます。

濃尾平野とその附近は、古來交通上大切なところで、多くの街道がここに集つてゐます。東海道を始めとして、まはりの山地からこの平野に流れくだる川々に沿うて通じる道や、伊勢平野を通る道などの組み合ふ十字路ともいふべき地方であり、その上、昔の都京きやう都とに近かつたために、いつそう交通上にも軍事上にも、大切なところとなつてゐたのです。従つてこの地方には、戦國時代の武將ぶしやうたちが勝敗を争つた古戦場が少くありません。桶狭間や關原はその主な例です。

濃尾平野は、氣候がよく土地も肥えてゐるので、農業が發達し、米や野菜がたくさんできます。桑畠も廣く分布し、養蠶が盛んですから、まゆ・生絲を多く産出します。養鶏も早くから有名で、愛知縣は、わが國でもいちばん養鶏の盛んなところとなつてゐます。

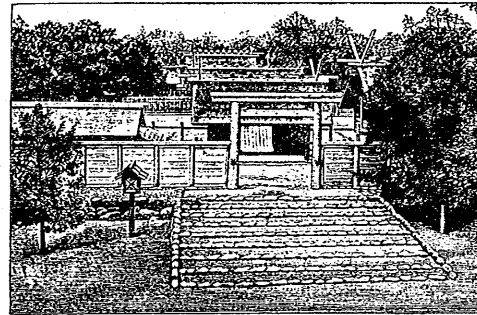
この濃尾平野の中心が名古屋です。まはりに廣い平野をひかへ、南に深く入りこんだ海にのぞんでゐる名古屋は、土地のやうすから見て、東京とよく似たところがあります。もちろん濃尾平野は、關東平野ほど大きくはありませんが、同じく本州にある主な平野であり、この平野が、名古屋といふ大きな都市を生んだといへるでせう。名古屋は今や人口百三十萬、東京・大阪に次ぐわが國第三の大都市で、近年の發展ぶりは、實にすばらしいものがあります。名古屋がもと城下町として發達したところであることも、また東京と同じで、天守閣に高く輝く金のしやちは、新しい發展の勢を見せてゐるやうにも見えます。

城下町時代から交通の要地であつた名古屋には、東海道本線中

中央本線・關西本線などの主な鐵道が集り、電車も、町から平野の各方面へ通じてゐます。さらに近年りつばな築港ができて、大きな汽船が自由に出入するやうになり、名古屋はわが國屈指の貿易港となりました。

港の少し北に、草薙の劔をおまつりした熱田神宮があります。昔はこのあたりが船着場で、東海道の旅はここから船で桑名へ渡つたのです。

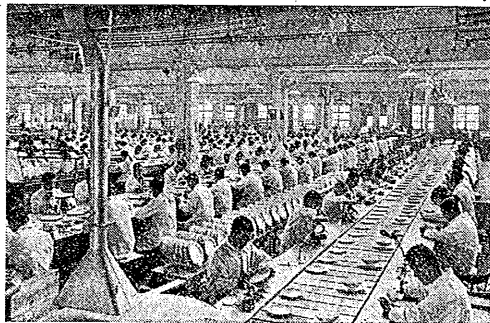
名古屋は、その附近とともにわが國の大工業地帯であり、いろいろな工業が盛んで、機械器具工業、化學工業、陶器製造、紡織工業などが行はれてゐます。一宮、岐阜、大垣



熱田神宮

などの都市が発達し、それぞれ附近の工業の中心となつてゐます。名古屋の北東にある瀬戸は、陶器の産地として古い歴史をもち、それが世に廣まつて、瀬戸物といへば陶器のことを指すほどです。が、近年名古屋では陶器製造が盛んになり、その産額は瀬戸をしのぐやうになりました。名古屋から瀬戸・多治見にかけては、わが國で最も盛んな陶器地帯となつてゐます。

伊勢平野でも、四日市・津・松阪などを中心に、近年工業が発達し、濃尾平野の工業の延長と見ることができます。さうして、名古屋港は四日市港とともに、後にひかへた大



名古屋の陶器工場

工業地帯の製品を輸出し、その原料を輸入するのです。

伊勢平野の南にある宇治山田は、神宮のおはしますところで、四時参拜者が絶えません。老樹高く茂る神路山のふもと、水とこしへにすむ五十鈴川のほとりにある神域の神々しさは、筆にもことばにもつくされません。全国津々浦々から集る参宮の人たちで、昔から伊勢路はにぎはつたものですが、今では鐵道の便がたいそうよくなつてゐます。

琵琶湖のほとり 琵琶湖は、わが國でいちばん大きな湖で、滋賀縣の面積の六分の一に當ります。縣全體が琵琶湖を中心とした一つの大きな盆地で、國の名をとつて近江盆地といひます。

盆地の川は、みな琵琶湖に注ぎます。湖の西岸は、山がせまつて平地も少いのですが、東岸には、湖に注ぐ川々の下流にできた平野があり、人口も密です。湖の水は、一部は南端から流れ出て淀川となり、一部は大津から疏水運河により京都へ引かれて、水運に利用され、また飲料水ともなつてゐます。

琵琶湖と大津

近江盆地は、その位置が、京都と東の地方とを結ぶ主な街道の通る道すぢに當つてゐて、古來交通上、軍事上大切とされ、これらの街道が盆地に入る要所には、關所が設けられてゐました。また、琵琶湖は、交通上よく利用され、大津を始め、沿岸には所々に港があります。

琵琶湖を中にたたへた近江盆地は、いたるところ風景がよく、盆地全體が一つ



の美しい風景畫とも見られます。

琵琶湖は、盆地の氣候にも關係が多く、夏の暑さと冬の寒さをやはらげてゐることに役立つてゐます。

琵琶湖では漁業が行はれるほか、魚類の養殖が行はれ、殊に鮎はわが國諸地方の川に放すためにたくさん育てられ、元氣のよい小鮎が、遠く各地へ送られて行きます。

湖岸の平野は土地がよく開け、品質のよい米が取れ、また菜種を多く産じます。北陸に近くて雪の多い盆地の北部では、養蠶が盛んで、その中心の長濱は絹織物の産地です。

米原は、東海道本線から北陸本線が分れるところ、彦根は城下町として發達したところで、りっぱな城が残つてゐます。大津は湖上交通の中心で、市の内外には人造絹絲の大工場があり、わが國で

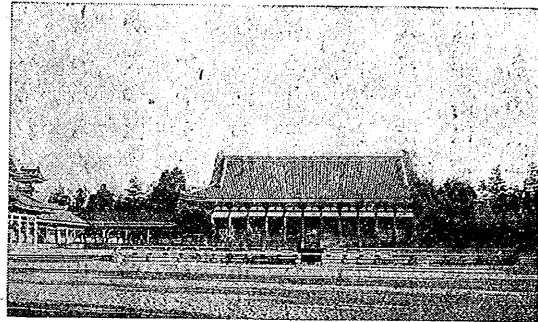
もその主な産地となつてゐます。

京都と奈良 京都と奈良は、ともにかつて帝都であつたところで、それぞれ京都盆地及び奈良盆地の北部にあること、しかも市街がどちらも東側の山のふもとの方へ片寄つてゐることなど、互に似かよつたところがあります。

かやうに京都も奈良も、盆地の北の端に規模の雄大な都がつくられたのですが、市街の西の部分はさびれ、東の部分が發達して、次第に山のふもとの方へ寄つて行つたのです。

兩盆地は、隣りの大阪平野とともに早く開けたところですから、人口もたいそう密で、交通機關もよくとのひ、この三地方の往來は非常に便利です。

京都は一千餘年の久しい間帝都として榮えたところですから、

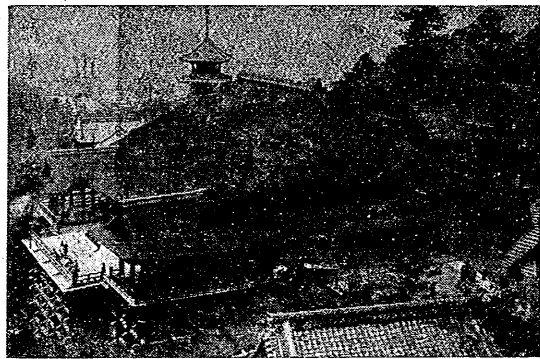


田川と同じく、京都の町に風情をそへてゐますが、隅田川のやうに水運の便はありません。

いたるところに名所舊蹟があつて、市全體が歴史的記念物ともいへるほどです。しかも交通の一大中心地で、近代都市としての發展も見るべきものがあり、今や人口は神百十萬をかぞへ、わが國第四の大都市であります。

平 町すぢがごばんの目のやうにきちんと東西・南北に通つてゐるのは、都がつくられた時からの形が残つてゐるからです。市中を北から南へ流れる賀茂川は、東京の隅

市内には京都御所を始め、平安神宮、上下の賀茂神社、東西兩本願寺・智恩院・清水寺など名高い社寺がたくさんあります。美しい社

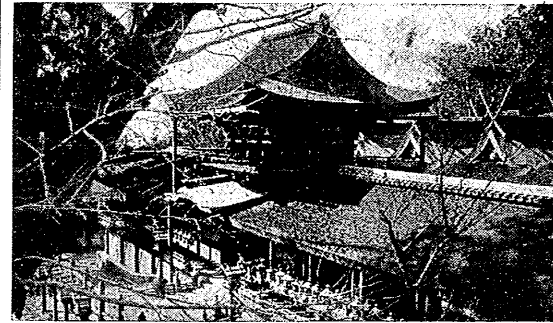


寺 殿や堂塔の後に、東山のやうな圓く重なり合ふ山々を望むところに、京都らしい落ついた美しさと奥ゆかしさが感じられます。北東の方にそびえてゐる比叡山には、名高い延暦寺があり、眺望がよいので登る人が絶えません。

清水 各種の學校、博物館などがあつて、わが國學術の一大中心地となつてをり、また古くから美術工藝品の製作が有名で、絹織物・染物・陶器など、いづれも品質のすぐれ

たものを産します。

市の南部に當る桃山には、明治天皇の御陵、昭憲皇太後の御陵があります。また附近一帯は、名高い宇治茶の産地です。



奈良は、都が京都にうつされる前七十餘年の間、帝都であつたところで、古い文化の神はなやかに咲き匂うところですから、春日の内外の史蹟、名勝をたづねると、そのころの繁華なさまが、なつかしくしのばれます。有名な正倉院、春日神社、東大寺、興福寺などがあつて、京都とともに、全國から訪れる人がたくさんあります。

奈良の南西にある法隆寺は、世界で最も古いしかも美しい木造建築物で、たくさんのお宝とともに、一千三百年の昔の文化の尊い記念です。

盆地の南部地方には、古い皇居のあとと御陵とが各地に拜されますが、特に畝傍山のふもとに、神武天皇の御陵や橿原神宮を拜するとき、われわれは、二千六百餘年の昔にたちかへつて、御創業をさながらに仰ぎ、尊い御精神に打たれるのであります。

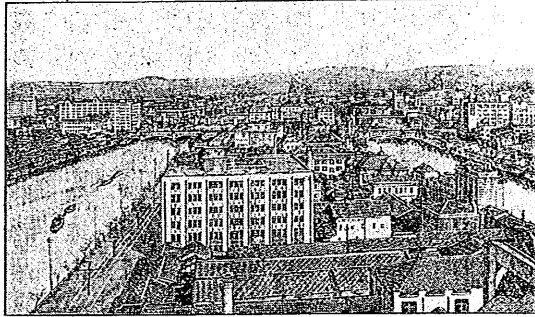


法 隆 寺

大阪と神戸 大阪平野の中央を流れ大阪灣に注ぐ淀川の川口に發達した大阪は、人口三百三十萬、わが

國第二の大都市です。大阪は古くから港町として榮えたところで、町が南東部の低い臺地と、淀川沿岸の低地とに區別されることは、東京と似てゐます。ただ臺地の部分は、東京の山手にくらべて、ずつとせまく、しかもこの部分は大阪での古い場所、高津宮、四天王寺、大阪城その他の史蹟があります。低地は商工業區域で、そこは淀川の下流がくしの齒のやうに分れ、それらをつなぐ堀がまたいたるところに通じてゐて、町すぢと川すぢとが、影の形に沿うやうに組み合ひ、水面と陸面とどちらが廣いかわからないほどです。大阪を水の都といひ、橋の町とよぶのは、まことによくこの町のやうすをいひあらはしてゐます。

このたくさんの水路は、昔から市内の交通に大きな役目をつとめて來ました。今でこそ、人の往來にはあまり利用されなくなり

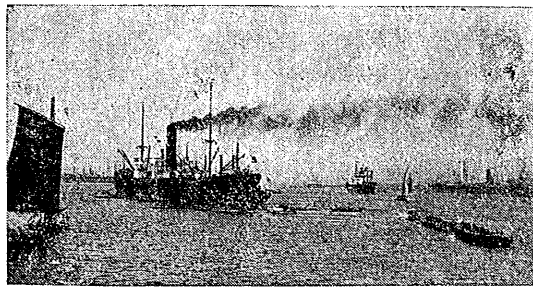


大坂の市街

ましたが、貨物はやはり川による輸送が盛んで、たくさんの荷物船が活動してゐます。淀川は、單に大阪市内のために便利な水路を開いてゐるばかりでなく、昔は大阪と京都の間の交通にも役立ち、沿岸には、りつばな川の港さへ發達したほどでした。

大阪は、東京とともに最も工業の盛んなところで、いはば工業日本の東と西を代表してをり、また商業についても同じことがいへます。ただ大阪は、町全體のはたらきが、ほとんど商業と工業とに集中されてゐる點で、東京とはまたちがつたおもむきがあります。

大阪を中心とし、ほとんど大阪灣の沿岸一帯に工業がひろがつてゐます。すなはち、大阪の西には尼崎、西宮、神戸など、南には堺、岸和田などの工業都市が連なつてゐます。これらは阪神工業地帯とよばれるわが國の一大工業地帯で、大きな工場があつて、各種の工業品がたくさん製造されます。大阪港は、神戸港と相まつて、この大工業地帯の製品を盛んに輸出し、原料を輸入する港で、横濱とともに、わが國の三大貿易港となつてゐます。



大 阪 港

大阪を中心として四方に通じてゐる電車及び鐵道は、網の目のやうに發達してゐます。神戸との間はもちろん、京都や奈良との間もたいそう便利であり、また大阪平野の附近に多い名所、舊蹟との間にも、電車の往來がひんばんです。

神戸は人口約百萬、横濱と並ぶ大貿易港です。港として古い歴史をもつてゐることは横濱とちがふ點ですが、今日のやうに大きく發展したのは、大阪といふ大商工都市をひかへてゐるからで、ここに横濱、東京の關係と同じものがあります。

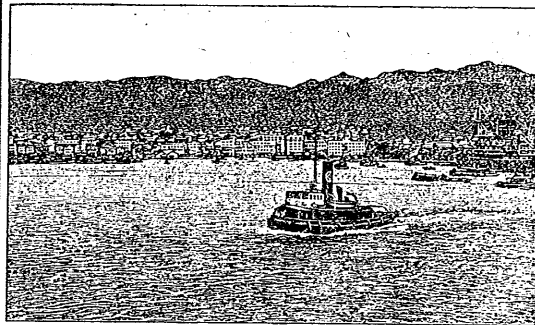
天然の地形を利用して築港された神戸港は、港の設備がととのひ、どんな大きな汽船でも自由に出入することができます。大きな造船所があるのはこの港にふさはしく、その他の工業もまた盛んです。

神戸は後に山をひかへ、平地が少いために、町は海岸に沿うて帯のやうに細長くのびてゐます。しかし町が發展するにつれて、家

は次第に山の傾斜地をはひあがつて行き、海岸から小高いところまで建物がずつと立ち並んで、特色のある市街をつくつてゐます。

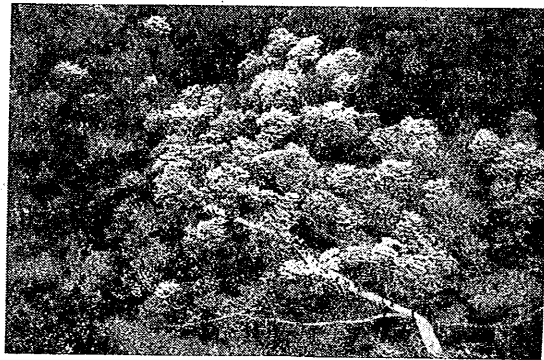
神戸驛の近くに、菊水のかをりも高い湊川神社があつて、としへに忠臣のいさをを仰ぐのであります。

黒潮洗ふ紀伊半島 紀伊半島は、本州の太平洋沿岸につき出た大きな半島です。北の方には土地のよく開けた伊勢奈良大阪の諸平野に接してゐますが、半島はいたるところ山がちで、殊に中央は山深く、そこにそびえる高い山々は、昔から信仰による登山者の多いところです。海岸も山が直ちに



神戸港

せまつてゐるので、平地がごく少いのです。山地には名所舊蹟が所々にあります。紀川の上流にある吉野山は史蹟と櫻とで名高



吉野山

く、中流附近にある高野山には金剛峯寺があつて、参詣者がたくさんあります。また、南の海岸近くには那智瀧の名勝があります。

かやうに、半島の内部は大てい山地です。すから、交通も不便で、産業もいつぱんに進まず、従つて都市も發達してゐないのです。しかし、紀川や熊野川の流域には森林がよく茂り、杉の良材を産するので、林業が盛んです。熊野川の川口の新宮

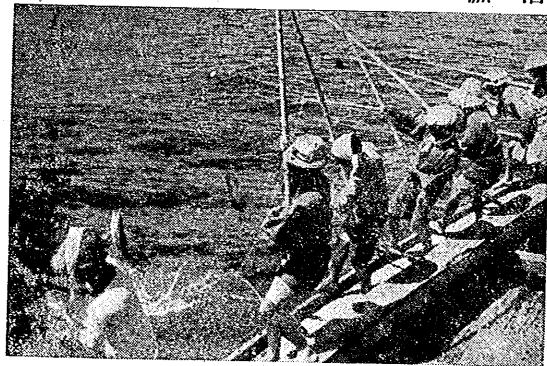
や、紀川の川口の和歌山はともに木材の集散地で、製材も盛んです。有田川の沿岸を中心とした地方は、みかんの産地として有名で、いはゆる紀州みかんの本場です。

紀伊半島の沿岸は、古來漁業の盛んなところですが、沿岸を洗ふ黒潮の流れには、いわし、かつをまぐろ、ぶりなどの魚類が多く、また勇ましい捕鯨業もこの半島の南部海岸では、昔から有名です。

黒潮は、日本海流といはれる太平洋中の大きな暖流です。流れの色が黒みがかつてゐて、他の部分と區別されるところから、かうよばれるのです。赤道の北を西へ流れ、フィリピンの島々につき當つて方向を北へ轉じ、臺灣や琉球列島の沿岸を通つて九州・四國の南岸から紀伊・伊豆・房總の諸半島附近を東へ流れ、銚子の近海から本州をはなれて北太平洋の沖へ向かふのですが、別にこの本流から分れて對馬海峡を通り、本州北海道の日本海沿岸を北上する支流もあります。

この黒潮の通路に當るわが太平洋沿岸には、各地に漁港があつて、それらの漁港を根據地とする漁船が、黒潮にをどる魚群を追うて遠く太平洋の真中までも乗出し、盛んに活動してゐます。

勇敢で漁業に巧みな日本人は、太平洋の諸地方ばかりでなく、インド洋方面までも進出して、いたるところすぐれた腕前をあらはし、世界一の水産國たる面目をよく發揮してゐます。



かつをつり

五 神戸から下關まで

神戸から下關に至る山陽本線の通る地方は、山陽道とよばれて来たところで、京都大阪方面と九州とをれんらくする地方として早くから開け、海岸の平野には各所に都市が発達してゐます。

神戸に起る山陽本線は、これらの都市を連ねて景色のよい瀬戸内海の沿岸を通り、下關に達するのですが、下關からは直ちに海底トンネルによつて門司に出て、九州の鐵道にれんらくするので、東京から長崎や鹿児島へ直行する列車もあります。

また下關から朝鮮の釜山へも、鐵道れんらく船が通じてゐます。瀬戸内海は、本州の南西部と四國九州との間にかこまれた細長い内海で、交通上大切な位置を占め、わが國で最も早く

から海上交通の發達したところ です。

沿岸は非常に出入が多く、岬があればかならず灣があり、灣のほとりには港があります。またこの海全體にわたつて、大小無数の島々がちらばつてゐるので、いつそう船着きに適したところが多いのですが、本土と島との間や島と島との間には、狭い海峡が次々にあるので、船の通路はなかなかふくざつです。その上、潮の干満の度ごとに、これらの海峡を潮流がはげしい勢で流れます。淡路島と四國との間の鳴門海峡は、潮流のはげしいところとして有名です。この鳴門海峡や、下關海峡その他、瀬戸内海と外海とをれんらくする



瀬戸内海の風景

海峽は、軍事上特に大切なところであることを忘れてはなりません。

瀬戸内海の沿岸は、本州中でも雨の少い、晴天の多い地方で、かつ沿岸の山地も島山も花崗岩の白い山はだを見せ、海岸の砂濱がまた白くかがやいてゐますので、全體として明かるい感じを與へます。そこに緑の松が連なり、青い海の色と相映じて、美しい景色をくりひろげます。砂濱には各地に塩田が續き、よく開けた田園が起伏に富んだ岡のふもとをめぐつてゐます。瀬戸内海は、たしかにわが國の海の公園であります。

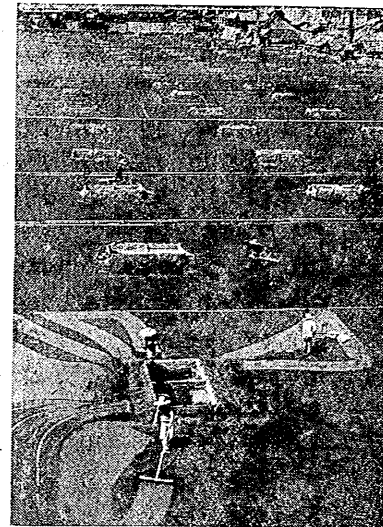


社 神 島 嚴

その上、源平の古戦場としての屋島や、名高い嚴島神社のある嚴島を始め、沿岸や島には、史蹟・名勝の地が少くありません。

瀬戸内海は沿岸航路としてだけでなく、外國航路としても大切な道に當つてゐるので、東の神戸・大阪、西の門司・下關などの大きな港の外、沿岸各地に良港があつて、汽船が絶えず往來してゐます。従つて、瀬戸内海は海の公園であるとともに、わが國で最もにぎやかな海の街道といふことができます。

瀬戸内海はまた、水産業の上からも大切な海です。そこにはたくさんの魚類が集り、いはば天然の養魚場といったおもむきがあります。従つて、いろいろの魚類が取れますが、殊にたひはこの海の名産です。貝類の養殖も各地で行はれ、中でも廣島灣のかきは最も有名です。



田 塩

遠浅で砂濱がよく發達し、晴天の日の多い瀬戸内海の沿岸は、昔から製塩業が盛んで、いたるところに展開する。塩田風景は、今日内地ではこの海のほかには見ることもできないものです。つまり

わが内地の塩のほとんど大部分は、この地方でできるのです。赤穂防府坂出などはその中心地です。

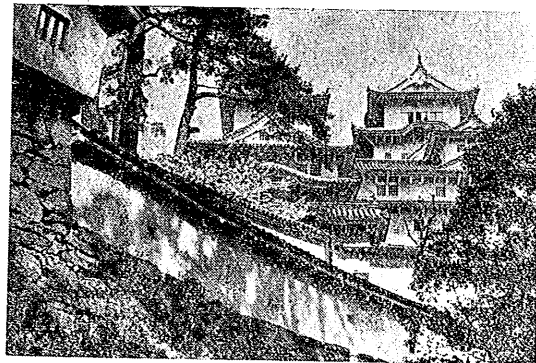
なほ沿岸や島々には、いろいろな果樹の栽培が盛んです。氣候が果樹に適してゐるのと、いつぱんに山地が多くて田が少いので、傾斜地を利用してその栽培に力を注ぐからであります。みかん

びは桃梨ぶどうなど、いろいろな種類のものも多く産し、各地に送り出してゐます。

沿岸の工業 瀬戸内海の沿岸では、近年各地に工業が大いに發達して來ました。さうして、これはやがて阪神と北九州との二大工業地帯を、だんだん結びつけて行くもののやうに思はれます。

東の播磨平野は、すでに阪神工業地帯の延長と見ることができ、明石から姫路

附近へかけての沿岸には、いろいろな工場ができてゐます。姫路は、この平野に多く取れる米の集散地であるばかりでなく、工業地



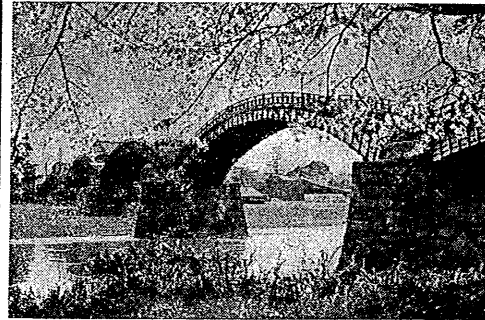
姫 路 城

として發達してゐます。市の中央にある城はよく昔のおもかげを残し、そびえ立つ天守閣の美しさは、さすがに天下の名城の名にはちません。附近の廣畑には、大きな製鐵所があります。平野の

北にある西脇は、織物を多く産します。

さらに岡山・倉敷から福山・尾道・三原に至る地方にも、各種の工業が大いに興つてゐます。

廣島は人口三十四萬、廣島灣の奥にある良港で、海陸の交通がよく、従つて商工業が榮えてゐます。呉は瀬戸内海にある軍港で、海軍の工廠があつて、廣島とともに軍需品の製造が盛んです。



岩國の錦帯橋

岩國には大きな人絹工場があり、徳山には海軍の燃料廠があります。また宇部は石炭の産地に發達した新興工業都市です。宇部の北東にある山口は史蹟に富んでゐます。

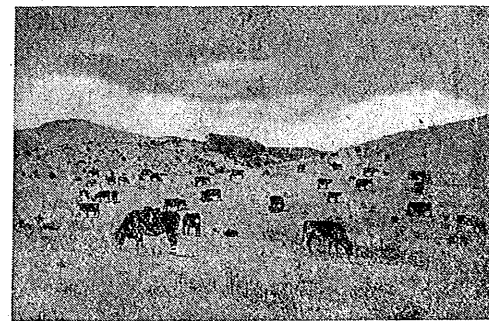
下關は、對岸の門司とともに、瀬戸内海の西の口にある良港で、水陸交通の要地です。また漁業の大中心地として、水産物の集散が盛んですが、市の一部である彦島には、造船その他の工業が行はれてゐます。

四國の瀬戸内海沿岸でも、近時都市を中心として、いろいろな新しい工業が發達して來ました。

なほ農家の副業として、岡山・廣島二縣には、たたみ表やござがたくさん作られ、この地方は、わが國でもその主な産地となつてゐます。製品は岡山・福山・尾道などに集り、各地へ送り出されます。

中國の牛 中國山脈は、いつぱんにけは
しくない高原狀の山地ですが、中に火山の
すそ野などもあつて、いたるところ牧畜に
適し、昔から農家の副業として、牛の牧畜が
たいそう盛んです。

山脈の北側の山陰地方にも、南側の山陽
地方にも、それぞれ名高い牛の産地があり
ます。これらの牧場は、北海道や、本州北東
部にある馬の大きな牧場とちがつて、小さ
な牧場がたくさんあるのです。育てられた牛は、肉用あるひは運
搬用として各地へ送り出されますが、肉用としては神戸方面に送
られるものが多く、また廣島その他で、かんづめの製造に當てられ



牛の牧場

るものもあります。所々に牛市が立つて取引され、中には遠くか
ら集つて來て、にぎやかな市が立つところもあります。

北四國 四國は、瀬戸内海に面する北四國と、太平洋に面する南
四國とに分けることができます。北四國は、南四國にくらべて海
陸の交通が便利であり、人口も密で、都市も發達してゐます。

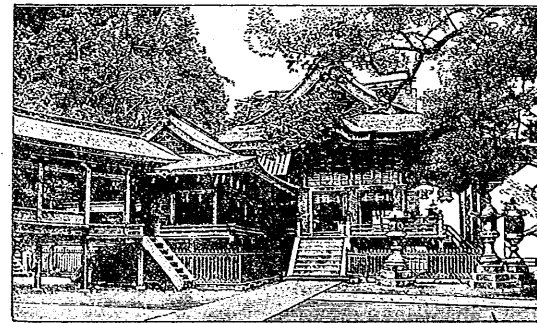
高松附近の平野は、土地がよく開け、米や麥を多く産します。雨
がわりあひ少いので、播磨平野や大阪平野などと同じく、田に水を
引くための貯水池がたくさんあります。海岸に塩田が發達し、ま
た果樹の栽培が盛んなことは、山陽地方と同じです。

主な都市は、たいてい港で、これらの都市をつなぐ鐵道が、ずつと
海岸に沿うて通じ、四國の主な鐵道となつてゐます。これと山陽
本線とをれんらくするため、高松と玉野との間には、鐵道れんらく

船が通つてゐます。

高松は、交通上大切なところで、附近に屋島があり、西へ行けば坂出・丸亀・多度津などの都市が連なつてをり、多度津の南には有名な金刀比羅宮の門前町の琴平があります。

新居濱は、別子鑛山によつて發達したところで、近年新しく工業が興つてゐます。別子鑛山は、わが國でも主な銅の産地で、鑛石は、瀬戸内海にある四阪島で製鍊されます。さらに西には、西條・今治・松山などの主な都市があります。また道後は、古くから有名な温泉場です。



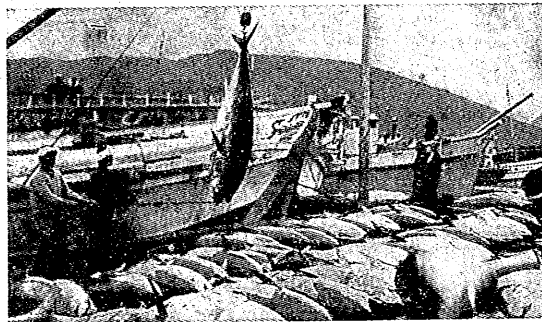
金刀比羅宮

南四國 南四國は、北とちがつてたいそう雨が多く、氣候はいつも暖かで、森林がよく茂つてゐて、林産物に富んでゐます。

陸の交通は、まだいづぱんに不便で、鐵道としては、多度津から南の山脈を越えて土佐灣沿岸に至るものと、吉野川に沿ふものが主な線です。そのため、沿岸航路と自動車とが、その不便をおぎなつてゐます。

四國を一まはりする巡禮道は、昔ながらに利用され、春の四國は巡禮の國であることを思はせます。

吉野川沿岸には、たばこの栽培が盛んです。下流の徳島は、この流域の物産の集る



ところで、阪神地方との取引が行はれてゐます。

土佐灣沿岸には各地に漁港があつて、かつをやまぐろなどがたくさん取れ、高知縣は、かつをぶし、いはゆる土佐節の産地として知られてゐます。高知は、この地方の中心都市として交通の要地となつてゐます。

愛媛縣の南部は養蠶が盛んで、製絲業も行はれてゐます。宇和島は漁港で、また製絲業の一中心地です。

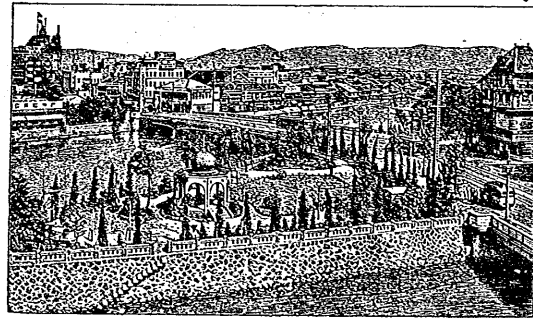
六 九州とその島々

九州は、その位置が内地でも西の端に當つてゐるので、歴史上、支那や西洋の國々との交通に關係が深かつたのですが、今後は東亞の諸地方とのれんらく上、いつそう大切なところとなるでせう。九州にとつてその位置は昔も今も變らず、大切な意味をもつてゐます。

工業の盛んな北九州 九州でも北九州は、本州の西の入口に當り、海陸の交通が非常に便利である上に、わが國でいちばん大きな石炭の産地ですから、そこにすばらしく工業が發達したのです。中でも福岡縣には、遠賀川流域の筑豊炭田、有明海沿岸の三池炭田の二大炭田があつて、わが國で産する石炭の約半分をこの縣から

産出します。そのほか、佐賀・長崎の兩縣からも石炭が出るので、北九州はたいそう石炭に恵まれたところ です。

九州でも、北の端にあたる門司・小倉・戸畑・八幡・若松などの都市が連なる地方は、いたるところ工場が立ち並んで、わが國の一大工業地帯を成し、重工業・化学工業・食料品工業などが行はれてゐて、その盛んなあります。まは、汽車の上からでも、よく見ることができます。殊に八幡の製鐵所の大きいことは、だれでもびつくりするほどで、ここで使用する原料の鐵鑛は、朝鮮・滿洲・支那・マライなどから運ばれて來るのです。門司・若松



福岡の市街

の二港は、この工業地帯の製品を内外各地へ積み出し、原料を輸入するとともに、また筑豊炭田の石炭を多く積み出します。

福岡は、人口三十萬、九州第一の都市で、港町としての博多の名は、古くから著れてゐます。近くに炭田があるので、新しい工業が興り、また昔から名高い博多織を産します。久留米がすりで知られた久留米は、交通の要地として商工業が盛んです。大牟田は、三池炭田のために、發達した都市で、化学工業を始め、いろいろな工業が新しく興つてゐます。市の一部に三池港があつて、石炭を盛んに積み出し、また唐津や長崎からも、附近の石炭が多く積み出されます。

長崎は、わが外國貿易の歴史に特に縁の深い港で、大きな造船所があり、機械その他の製造も盛んです。佐世保は、軍港として發達



したところで、海軍の工廠があります。その東の有田は、陶器の産地として昔から名高いところです。

宮 小倉から南東の瀬戸内海沿岸にも、次第に工業が発達し、中津はその一中心地です。佐 中津の東にある宇佐神宮は、和氣清麻呂の宇 忠誠と結んで、たれ知らぬものもない社です。別府灣岸の大部分は、日豊本線のほか、久留米や熊本との間に鐵道が通じてる、交通の要地となつてゐます。

工業が大いに榮え、人口も密で、都市も多い北九州には、交通がよく發達してゐます。門司から起る鹿兒島本線と、小倉から起る日

豊本線とは、鹿兒島で出あつて九州を一周する幹線をなし、また鹿兒島本線から分れる長崎本線も、主な線となつてゐます。

これらの幹線の集る北九州では、その支線が各地に通じ、殊に筑豊炭田地方のたくさんの炭坑町をつなぐ線が、網の目のやうに發達してゐます。

北九州は海岸の出入が多く、いたるところに灣があり、主な都市はたいてい良港で、各地に航路を通じてゐますから、海上の交通もたいそう盛んです。

福岡はわが國の航空路の一中心で、滿洲や支那へ、また臺灣を経て南方諸地方へ、航空路を通じてゐます。

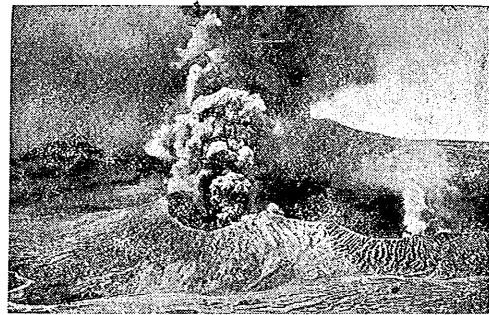
筑紫平野と熊本平野 九州でいちばん大きな筑後川の流域にひろがる筑紫平野は、九州一の廣い平野で、これに次ぐ熊本平野と

もに、農産物が非常に豊かです。特によい米がたくさん取れ、他の地方へ盛んに送り出します。また、麥や菜種も多く産します。

筑紫平野では佐賀と久留米、熊本平野では熊本が中心都市で、ともに米の取引が盛んです。三市とも、城下町として發達したもので、殊に當時の城として熊本城は有名です。

筑紫平野は關東平野などと同じがつて、土地の大部分がごく低く平らです。見渡すかぎり田が連なり、みぞが無數に通じてゐて、それがこの平野の一つの特色をなしてゐます。筑紫熊本の兩平野は人口がきはめて密で、北九州工業地帯とともに、九州でもいちばん密な地方となつてゐます。

阿蘇と霧島 九州は、阿蘇火山帯や霧島火山帯が通つてゐますから、火山がたくさんあります。中でも、阿蘇山と霧島山とはその



阿蘇山の噴火口 代表的なもので、そのほか島原半島の雲仙岳や、鹿兒島灣内の櫻島なども有名な火山です。櫻島は、もと鹿兒島灣の奥にある火山島でしたが、大正三年の大噴火の時、流れ出した熔岩のために、大隅半島と地續きになりました。

阿蘇山の舊火口は、東西十八キロ、南北二十四キロ、世界に例のないほどの大きなもので、その中央にまたいくつかの新しい火山丘ができ、その一つが今なほ盛んに煙を吐いてゐるのです。これらの火口丘と、舊火口壁との間は平地になり、村や町がいくつもあります。

これらの火山のあるところは、すべて景色がよく、附近にはたい
てい温泉があるので、各地からたくさんの人がやつて來ます。殊
に別府は温泉町として世界的に有名なところ です。

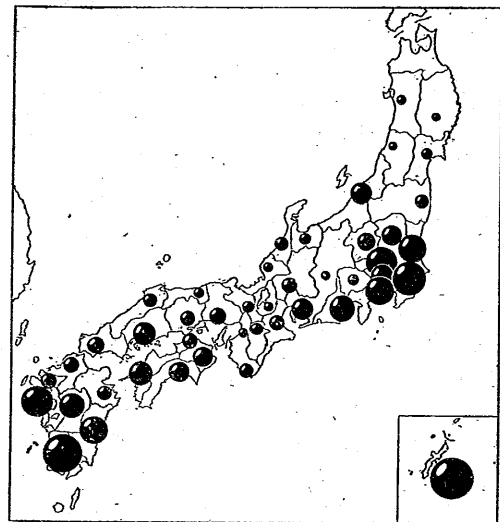
火山の中腹や、すそ野には廣い原野があつて、牧場に適しますか
ら、阿蘇霧島雲仙など、いづれもりっぱな牧場があり、牛や馬が飼は
れてゐます。九州はいつぱんに牧畜が盛んで、牛も馬もたくさん
ゐます。

神代をしのぶ南九州 九州をななめに横ぎる九州山脈を境と
して、その南にある南九州は、北九州にくらべていつそう暖かく、雨
もまたずつと多く降ります。この關係は、四國の南と北の場合と
よく似てゐます。

南九州は、瓊瓊杵尊の御降臨以後神武天皇の御東征に至るまで

の歴史を傳へる地で、われわれをして遠く神代をしのばせ、國史の
尊い根元に思ひをひそめさせるのであります。

この地方では、北九州のやうな商工業の發達は見られませんが、

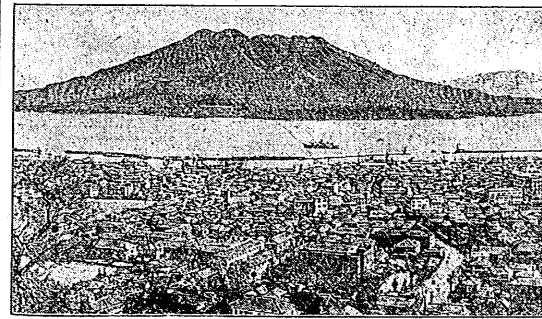


さつまいもの分布

農業や牧畜は盛んに行はれ
てゐます。北九州とちがつ
て田よりも畠が多く、さつま
いもがたくさん作られます。
鹿兒島縣は、たばこの産地と
して知られてゐます。

鹿兒島縣には金銀や錫を
産し、宮崎縣から大分縣にか
けての九州山脈中にも、金銀

銅・錫などの鑛山があります。佐賀縣には大きな製鍊所があつて、盛んに金・銀・銅を製鍊してゐます。また九州山脈には森林がよく茂り、木材を始め、木炭・しひたけなどがたくさん出ます。なほ近年この山脈中、所々に水力發電所が作られ、附近の都市に新しい工業の發達をうながすやうになりました。鹿兒島は、南九州第一の都市で、鹿兒島灣にのぞみ、櫻島と相對してたいそう景色がよく、絹織物・陶器などを産します。南九州での海陸交通の一中心ともなつてゐます。宮崎は、大淀川の下流にある平野の中心地で、米の取引が行はれます。附近一帯には



鹿兒島と櫻島

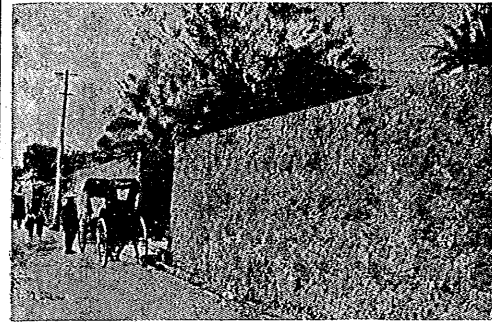
史蹟がたくさんあつて、太古に開けた地方であることを物語つてゐます。北の延岡では、水力電氣を利用し、人造絹絲・肥料などの工業が行はれてゐます。

琉球その他の島々 九州本土の南には、臺灣との間に薩南諸島・琉球列島が長く連なつてをり、北には朝鮮との間に壹岐・對馬、西には五島、その他大小の島々がたくさんあります。

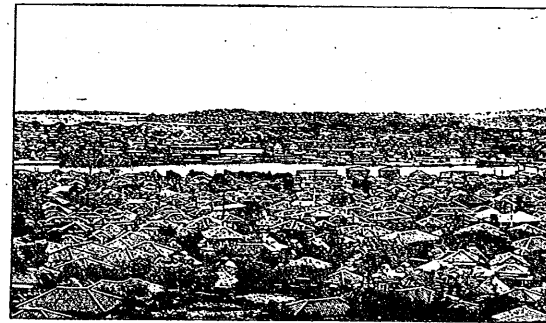
薩南諸島・琉球列島は氣溫が高く、熱帶植物が茂り、さとうきびの栽培が盛んで、内地第一の砂糖の産地です。また、さつまいもがたくさん取れ、米の少いこの地方の住民の食料として大切です。これらの島々では、家ごとに豚を飼ひ、わが内地として特に豚の多いところとなつてゐます。

薩南諸島の主な島は大島で、絹織物を産し、種子島は、始めてわが

國に鐵砲が傳へられたところとして有名です。



琉球列島の主な島は沖繩島で、那覇首里の二市があり、那覇は列島第一の良港です。琉球列島は、民わが國でも殊に颪風の多い地方です。琉から家はとくべつ琉に丈夫に作られ、まはりに高い石垣をめぐらすなど、風に對するいろいろの注意が施してあります。



那 覇 港

元寇の昔を思ひ起させる壹岐對馬は、今日、軍事上非常に大切なところで、また五島とともに漁業の根據地となつてゐます。従つて、長崎縣はわが國でも漁業がたいそう盛んで、同縣のするめは、鹿兒島縣のかつをぶしとともに著れてゐます。

九州の島々からは、遠く海外へ進出して、漁業その他に活動してゐるものがたくさんあります。

七 北陸と山陰

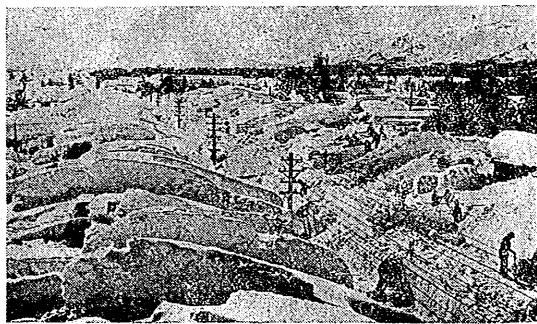
北陸は、新潟・富山・石川・福井の諸縣をふくむ地方をいひ、山陰は福井縣から西の方、中國山脈の北側を占める一帯の地方をいひます。兩地方とも日本海に面し、後に山地をひかへ、その山地を南へ越えた太平洋側や、瀬戸内海側とは、氣候その他いろいろな點でちがつてゐて、本州日本海沿岸としての特色をあらはしてゐます。

雪の北陸 冬、雪の多い日本海沿岸でも、北陸は特に雪が深く積ります。屋根よりも高く積る地方もあるほどで、野も村も町も全く一面の雪に埋まつてしまふ有様は、暖かい地方の人たちにはほとんど想像もつかないでせう。

かやうに雪の多い地方ですから、冬の交通は困難であり、産業上

にも、いろいろのさしかへが起ります。いつぱんに冬は田や畠の耕作ができません。そこで、長い冬を利用して各種の副業をいとなみ、それが今では大きな産業となつてゐるところもあります。そのほか、いろいろな點で、北陸の生活は、雪と深い關係があるのです。

米と石油の越後平野 信濃川の下流にある越後平野は、わが國でも主な農業地で、殊に米が多く取れます。新潟縣は、わが府縣中第一の米の産地で、東京をはじめ諸地方へ、たくさん送り出します。

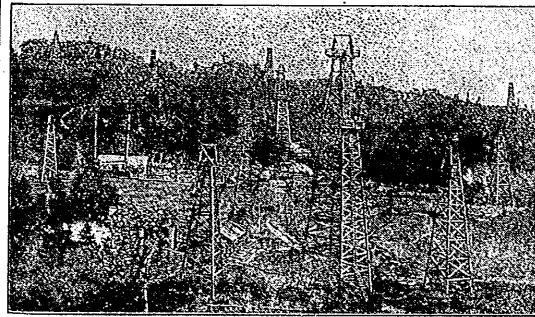


北 陸 の 雪

越後平野やその附近では、絹・麻・人絹などの織物業が各地に行はれてゐます。もとは、農業の餘暇を利用した副業から發達して、今日の盛大を見るやうになつたのです。

またこの平野は、石油の産地として知られ、秋田縣とともにわが國の石油の二大産地となつてゐます。柏崎・長岡・新津・新潟などには製油所があつて、石油を精製します。なほ新潟縣の鑛産物として、佐渡の金は古くから有名です。

信濃川の川口の港として發達した新潟は、近ごろ築港が新しくでき、朝鮮北部の港を通じて、滿洲との貿易が盛んになりました。



新潟縣の油田

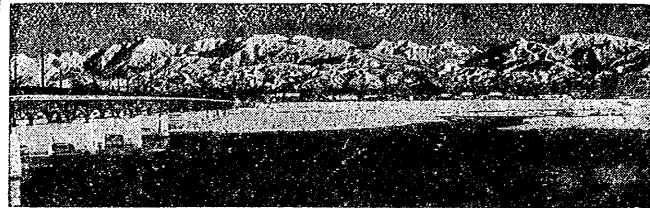
た。新しい工業も興つて、活氣を示してゐます。

上越線や信越本線は、越後平野と關東平野とを結び、信越本線と直江津で出あふ。北陸本線は、越後平野と京都・大阪方面とをねんくしてゐます。

直江津に近い高田は、雪の深いところとして知られ、附近の平野の中心地です。直江津から北陸本線で西へ向かふと、けはしい崖の海岸を通つて富山平野へはいります。

立山連峯を望む富山平野　まはりに山をめぐらし、前に灣をひかへた富山平野は、田が一面にひろがり、北陸では、越後平野に次ぐ米の産地で、他地方へたくさん送り出します。

富山平野をめぐる山地のうちでも、東側は特に高く、そこにそびえてゐる立山連峯を望む景色は、まことに雄大です。高い山地を



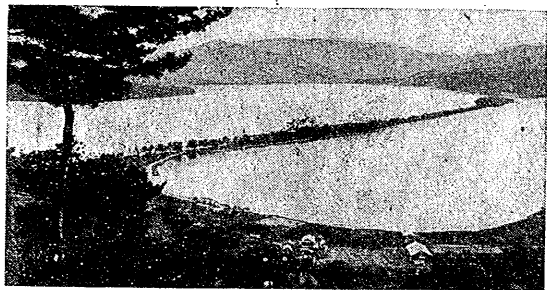
立山連峰

流れくだる川々は急流で、かつ水量が多いため、いたるところ水力發電に利用され、その電力によつて、富山高岡伏木などにはいろいろな新しい工業が興つてゐます。その電氣はまた、東京・大阪などにも送られます。富山平野及びその附近では織物業が盛んですが、昔から有名なのは製薬で、各地に行はれ、富山はその中心地となつてゐます。伏木は、この平野の港として米を積み出し、また朝鮮や満洲との取引も行はれてゐます。

羽二重の産地 北陸本線は、富山平野から南西へ向かひ、金澤・福井・敦賀などの都市を通つて、近江盆地へはいるのですが、その道すぢに當る石川・福井

の兩縣は、羽二重の産地として知られてゐます。殊に、福井縣はその製造が盛んで、わが國第一の産額を示し、原料の生絲は全國各地から集ります。石川縣は、これに次ぐ産地です。なほ、兩縣には人絹織物の生産が多く、これも福井縣・石川縣の順で、わが國第一であります。

北陸第一の都市である金澤は、附近一帯の地方とともに、羽二重人絹織物及び陶器を産し、福井は羽二重の町ともいはれるほどで、縣内の盛大な織物業の中心地となつてゐます。若狹灣は海岸の出入が多く、東部には敦賀の良港があり、西部の東舞鶴には軍港があり



天橋立

ます。また宮津灣の奥には、風景地として名高い天橋立があります。

敦賀は、天然の良港の少い本州日本海沿岸ではきはめて大切な港で、對岸の大陸方面との交通や貿易が盛んです。

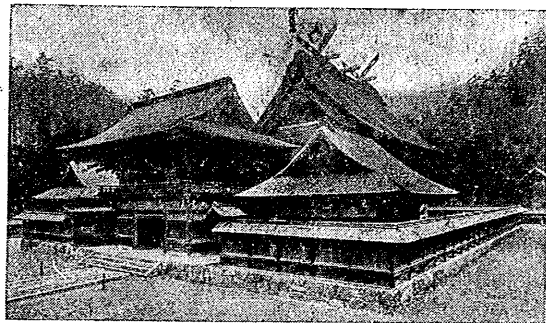


船上山と大山 京都から北西へ向かふ山陰山本線は、福知山を通り、やがて日本海沿岸に出ると、すつと海岸に沿うて西へ走ります。その沿大線にある鳥取は、岡山へ通じる鐵道の分れるところで、製絲業が行はれます。鳥取から砂丘の發達した海岸を西へ進むと、大山火山の雄大なすがたが近づいて來ます。

大山は山陰山陽の名山で、その廣いすそ野は海岸までのびてをり、牧場として利用されてゐます。名和長年が、後醍醐天皇を迎へ奉つた史蹟として名高い船上山は、大山の北のすそ野にある一つの火山です。

米子は海陸の交通が便利で、近年商工業が發達し、夜見濱の先端にある境との間に、鐵道が通じてゐます。境と隠岐との間には、れんらく船が通つてゐます。

出雲・石見の海岸 島根半島は、その内側にある中海や宍道湖とあひまつて、山陰の海岸に著しい變化を與へ、美しい風景をくりひろげてゐます。しかも宍道湖附近の平野は、平野の少い山陰中の主なもの、で、神代以來開けた出雲地方の中心であることを思はせ、いたるところに由緒のある神社や史蹟があります。島根半島の



北にある隠岐の島も史蹟に富み、また漁業が盛んです。出雲の南西に續く石見は、ほとんど山地ばかりで、山陰本線もずつと海岸に沿うて走つてゐるまです。出雲石見は日本海沿岸でも雪が浅く、冬もわりあひに暖かです。

大 出雲 矢道湖附近の平野では、米のほか、まゆを多く産します。養蠶は、山陰方面が山陽方面よりも盛んです。矢道湖の東岸にある松江は、城下町で風景がよく、町が美しいので有名です。島根半島の西端に近い大社には、出雲大社があります。樹木の茂る山のふもと、の神域に拜する御本殿は、古代建築の遺風を傳へ、あたり

の静けさに神代のごしおられます。大社に近い出雲は、平野の中心地で商業が行はれます。

石見地方では、濱田がこの地方の港として知られ、和紙の取引があり、また漁業の一中心となつてゐます。さらに下關へ向かふ山陰本線に沿ふ港として、山口縣の萩があります。維新の史蹟に名高いところです。

八 中央の高地

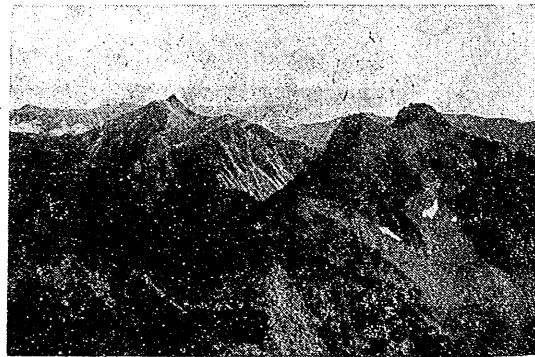
本州の中央部は、飛驒、木曾、赤石などの高い山脈があり、各地に火山がそびえ、高原が展開して、本州でいちばん土地の高いところとなつてゐます。この高地のちやうど真中を占めてゐるのが、長野縣です。

本州の屋根 本州中央の高地中でも、全體として最も土地が高まつてゐる長野縣は、いはば本州の屋根に當ります。殊に、同縣の西の境にある飛驒山脈は、三千メートル内外の高い山がいくつもあつて、南北に連なるけはしい嶺々は、大空を突いてそびえてゐます。東側の松本あたりから見た飛驒山脈の眺めは、實に壯觀です。山脈の西側には、飛驒高地がひろがつてゐます。

赤石山脈も、三千メートルをこえる山があつて、同じく雄大な山脈ですが、木曾山脈は大きさがこれらに劣ります。また、長野縣と關東平野との間にある山脈にも、高い山々がそびえてゐます。

これらの山脈の間を流れる信濃、木曾、天龍、富士などの大きな川の谷や、沿岸の盆地は、中央の高地での主な産業地となつてをり、都市もそこに發達してゐます。

中央の高地には、各地に森林が分布してゐて、木材を多く産します。殊に木曾谷の森林は有名で、ひのき、さはらなどの良材が伐り出され、各地へ輸送されます。畏くも神

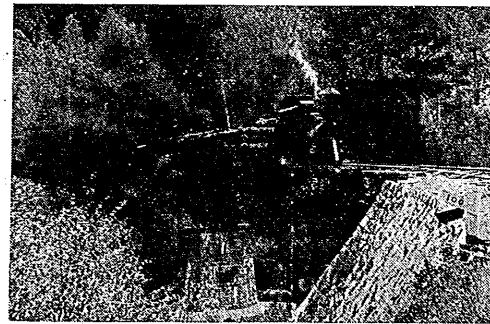


飛驒山脈の高峯

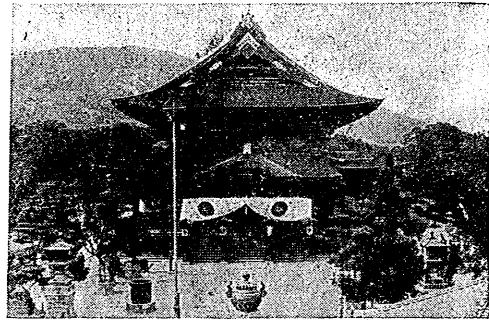
宮の御造營に用ひられるのは木曾の御料林のひのきです。

名高い養蠶地 本州中央の高地は、わが國でいちばん養蠶の盛んな地方で、いたるところに打ち續く桑畠が見られます。養蠶にとりなつて、この地方では、製絲業も各地で營まれてゐます。

諏訪湖の沿岸は製絲業が特に盛んで、その中心の岡谷は、わが國第一の生絲の町です。原料のまゆは、遠く各地から集められます。諏訪湖から流れ出る天龍川の谷も、まゆ生絲を多く産し、飯田はその中心地です。松本・長野・上田も、それぞれ養蠶の盛んな盆地の中心地です。松本



木材の運搬



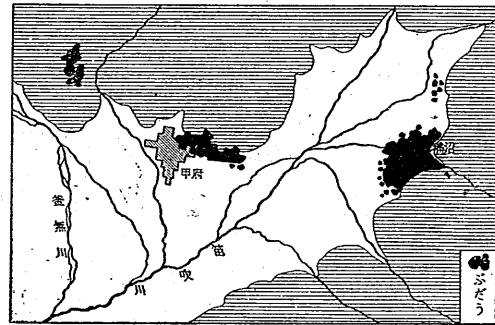
善光寺

は、縣のほぼ中央に位する交通の要地として商業が榮え、製絲業のほか工業も興つて、活氣をおびてゐます。北方の長野は、參詣者の多い善光寺の門前町として發達したところ、附近にはりんごを産します。聞くも勇ましい川中島の古戦場は、長野から近いところにあります。上田も製絲の盛んなところとして知られてゐます。

かやうに、養蠶の盛んな長野縣は、府縣中第一のまゆの産地であるばかりでなく、生絲の生産でも、わが國全體の約五分の一を占めてゐます。

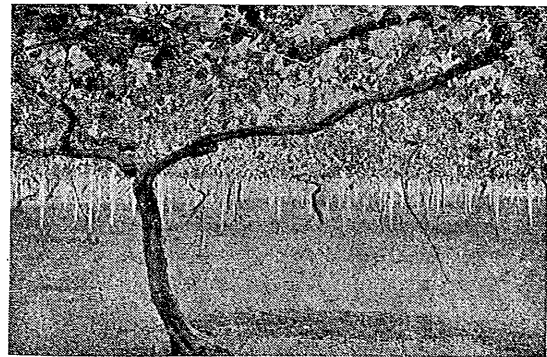
山梨縣もまた、甲府盆地をはじめ、各地で養蠶が盛んで、甲府は製

絲業の中心地であり、また水晶細工の特産があります。甲府盆地は、昔からぶだ



甲府盆地のぶどう園の分布

の盛んなところであること、絹織物も所々に産することは、すでに



ぶ だ う 園

うの産地として、名高く、殊に勝沼附近では、岡も平地も一面のぶだう園です。

長野縣及び山梨縣の東側の山地を越えて、關東平野に出るふもとの地方がまた養蠶製絲

前に述べた通りです。

また長野縣の南西にある愛知岐阜の兩縣にも、養蠶が廣く行はれてゐます。

わが國の養蠶業は、本州中央の高地がその大中心地となつてゐますが、他の府縣でもいたるところで行はれ、わが國は世界の生絲の大部分を産出するのです。従つて、絹織物も古來わが國の名産であり、日本人のすぐれた技術と豊かな趣味とをあらはしたものが、各地で織られます。

九 東京から青森まで

東京から北の方青森へ行く鐵道には、太平洋側を通るものと、日本海側を通るものとがあります。

太平洋側を通る東京青森間の線は、東北本線ですが、別に常磐線があつて、途中までこの線を通つて青森へ行く汽車もあります。

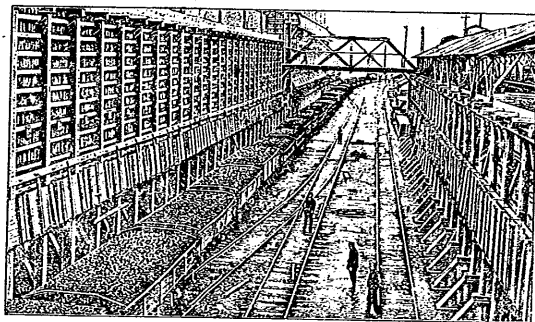
日本海を通る奥羽本線は、東北本線の福島から起り、奥羽山脈を越え、その西側の盆地や海岸平野を通つて、青森に達します。

これらの線が通る福島縣以北の地方は、位置の關係からいつて、本州中いちばん寒いところですが、奥羽山脈を境に、太平洋側と日本海側とでは氣候がちがひ、近くを暖流の流れる日本海側は、寒流の流れる太平洋側よりも氣溫が高いのです。雪は日本海側に深

くて、北陸の續きであることを思はせ、太平洋側はすつと少いのです。かうした氣候の特色は、産業交通などにも深い關係があります。

太平洋側 東北本線は、浦和・大宮・宇都宮を経て關東平野を北へぬけ、宇都宮から白河を通つて、阿武隈川の谷へ出ます。この谷では養蠶が盛んに行はれ、生絲を多く産し、郡山・福島はその中心都市となつてゐます。郡山は交通の要地にあり、猪苗代湖の水力電氣を利用して、製絲や化學工業などが行はれてゐます。福島は、その附近とともに生絲や絹織物の産地です。

東北本線と阿武隈川の下流で出あふ常磐線は、東京から北東へ向かひ、史蹟に富む水戸を通つて、太平洋岸へ出ます。水戸の北にある日立は有名な鑛山で、大きな製鍊所があり、銅を始め金銀を産

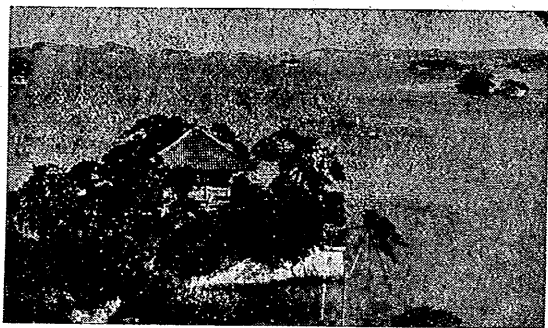


石炭の積み込み

します。また機械器具工業も盛んです。さらに北の方、常磐線の沿線一帯には茨城・福島・両縣にわたる常磐炭田があつて、各地の炭坑から出る石炭が驛毎に積み込まれ、盛んに東京方面へ送られます。平はこの炭田の中心地です。阿武隈川の下流から北は、東北本線によつてやがて仙臺に達します。

仙臺は、人口二十二萬、米のたくさん取れる仙臺平野の中心地として榮えてゐます。附近の塩釜は、仙臺の港の役目をつとめ、また同じ仙臺灣にのぞむ石巻などとともに、漁港として活氣を見せてゐます。

仙臺灣の一部である松島灣は、松の茂つたたくさんの島々が海上に美しく散在し、風景のよいので昔から有名です。



松島

仙臺灣から北の海岸は、たいそう出入が多く、各地に漁港が發達してゐて、いわし、かつをまぐろなどがたくさん取れます。宮城縣は、鹿兒島縣・靜岡縣とともに、かつをぶしの主な産地です。釜石はこの方面の漁港の一つですが、また附近に鐵山があつて、鐵の製鍊が盛んです。

東北本線は、仙臺平野から北上川の谷をさかのぼり、馬市で名高い盛岡や、牧馬の盛んな地方をすぎて、陸奥灣にのぞむ青森に

達します。

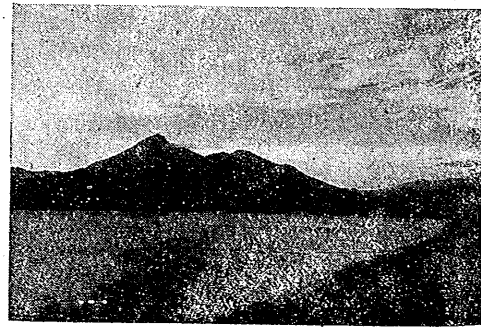
青森は、本州と北海道との交通商業上大切な港で、函館との間には鐵道れんらく船が往來してゐます。陸奥灣の奥には、海軍の要港の大湊があります。

日本海側 本州北東部の中央をたてに貫ぬいてゐる奥羽山脈には、那須火山帯が通つてゐるので、たくさん美しい火山がそびえてをり、温泉も各地にわいてゐます。火山の附近には、南の猪苗代湖や北の十和田湖のやうな、景色のよい湖もあります。なほ那須火山帯に平行して、日本海側を鳥海火山帯が通つてゐます。

磐梯山は、奥羽山脈中の名高い火山で、そのふもとの猪苗代湖は、西の會津盆地よりも三百メートルも高いところにあります。この湖から流れ出る水は、盛んに水力發電に利用され、その電氣は主

として東京方面へ送られてゐますが、一部は附近の工場で使用されます。

會津盆地の中心地若松は、盆地の米やまゆの集るところです。この盆地を始め、日本海側には盆地がいくつもあつて、南北に並んでをり、奥羽本線に沿ふ米澤、山形、横手などは、それら盆地の中心地です。かうした盆地や、酒田、秋田、弘前を中心とする平野及び仙臺平野などは、米の主産地で、東京を始め大阪その他へどんどん積み出し、内地のうちで、米を他地方へ送り出す大切なところとなつてゐます。ただこの地方は、年により夏の氣温が不足して凶作を見ることがあります。特に、寒流の



磐梯山と猪苗代湖

流れる太平洋側にそれが多いのです。

最上川の上流にある米澤山形は、ともに盛んな養蠶地の中心で、絹織物を産します。最上川流域から雄物川流域へ出る奥羽本線は、秋田で羽越本線と合します。羽越本線は、日本海沿岸を通つて、秋田と新潟方面とをれんらくする線で、庄内平野の酒田、鶴岡などは、この線に沿うてゐます。秋田の附近には、油田があつて石油を産し、主として秋田の製油所で精製します。石油のほか、秋田縣には、鑛産物が多く、米代川と雄物川の流域の山地には、銅、金、銀の鑛山が所々にあつて、中でも小坂は最も著れてゐます。

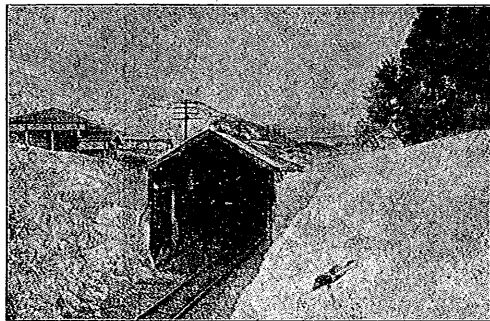
日本海側には、森林がよく茂り、殊に米代川流域の杉は有名で、沿岸各地に製材業が行はれ、能代はその中心地となつてゐます。

奥羽本線は、八郎潟の東岸を通り、米代川に沿うてのぼり、上流か

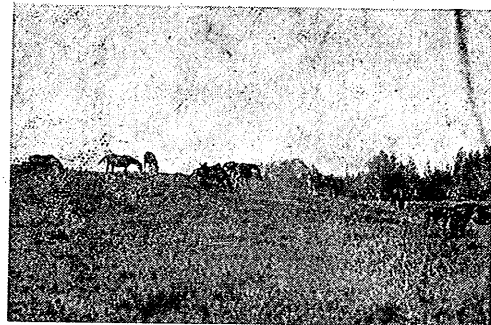
ら北へ峠を越えて、弘前をすぎ、やがて青森に達します。

東北本線と奥羽本線とを東西にれんらくする鐵道は、奥羽山脈を横ぎるためにその發達もおくれましたが、今日では幾本もできて、だんだん便利になりました。しかし、日本海側は冬、雪が深いので、汽車の交通もさまたげられることがあります。この地方では、線路のところどころに、雪よけトンネルが設けてあります。また冬の日本海沿岸は、風波が荒くて海上の交通も不便をまぬがれません。

馬とりんご 奥羽山脈の東側は、古くから牧馬がたいそう盛んで、名馬の産地とし



雪よけトンネル



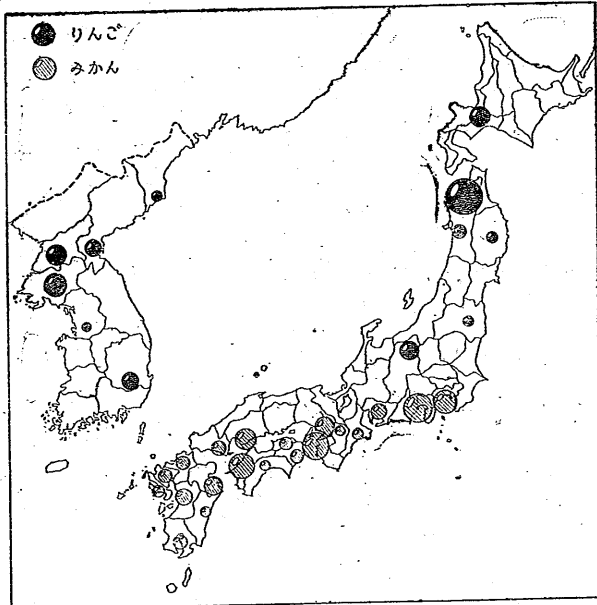
馬の牧場

て知られた地方です。火山のすそ野や、広い原野には、各地に牧場があつて、たくましい馬がたくさんとびまはつてゐます。また、農家でも馬を育てるのに熱心で、いたるところで飼はれてゐます。三本木附近、盛岡附近、仙臺平野の西部、白河附近などは牧場の中心地です。所々に馬市が立つて取引されますが、盛岡や白河の馬市は殊に有名です。



實るりんご

中には、軍馬となつて勇ましく戦場で働いてゐるものもたくさんあります。



りんごとみかんの分布

太平洋側が有名な牧馬地帯であるにひきかへ、日本海側には、わが國第一のりんごの産地である弘前附近の平野があります。この地方では、明治の初めごろから栽培され、以來栽培者の非常な苦心が續けられた上、氣候土質もまたり

んごに適したため、遂に今日のやうな盛況を見るに至りました。青森縣は、内地のりんごのほとんど大部分を出し、各地へ送られます。

りんごと同じく、本州北東部に最も多い果物に櫻桃があります。これは、わが國で山形、福島の一縣が特に多く栽培されてゐます。本州北東部では、暖かい地方に適するみかんがほとんど見られなはいかに、暖かい地方にごく少いりんごや、櫻桃がたくさんできます。

十 北海道と樺太

北海道本島と、千島列島、及び北緯五十度の線を境とする樺太島の南半部は、わが國でいちばん北にある地方ですから、本州や四國、九州とちがつて、氣溫がずつと低く、冬の寒さのきびしいところです。北海道も樺太も、開拓の歴史は新しいのですが、それにもかかはらず、移住者の努力によつて、兩地方ともその發展にはめざましいものがあります。

北海道は、明治の初めから、本州その他各地方から移住して來た人たちがいろいろな困難と戦ひながら、努力を重ねて開拓に従事したので、種々の産業が大いに興り、それとともに交通も發達して來ました。人口は年々増加し、都市も所々にできて、すべてが新興

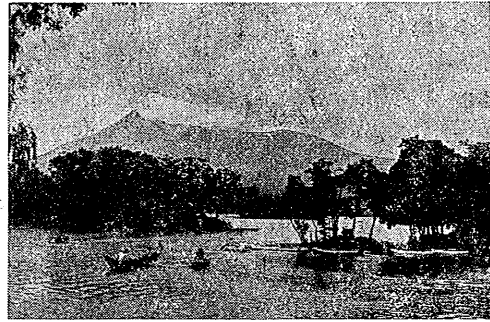
の意氣を見せてゐます。

樺太は、北海道よりもずっとおくれで開拓されたのですが、ここでも内地からの移住者の活動によつて、特色のある産業が盛んとなり、北海道と相應じて北の日本の發展を物語つてゐます。また、北海道樺太ともに、國防上きはめて大切なところであることに注意せねばなりません。

北海道は人口約三百三十萬、樺太は約四十萬で、いづれも面積のわりあひからすると、わが國でいちばん人口の少い地方ですが、今後の發展にもなつて、ますます増加するであります。

北海道の三大港 函館・小樽・室蘭は北海道の主な港で、いづれも西の半島部にあります。この半島部は、北海道の入口に當り、特に津輕海峡にのぞむ函館は、本州とのれんらくのいちばん便利なと

ころです。小樽は、日本海方面の港を代表し、室蘭は、太平洋方面の港を代表すると見ることができます。そのほか主な港に、釧路根室・稚内などがあり、稚内から樺太の大泊へは、鐵道れんらく船が通



じてゐます。外國貿易は、大部分函館・小樽の二港で行はれ、主にシベリヤや支那との取引があります。

大 函館は、海陸交通の要地にあつて、人口二十萬、水産物の取引が多く、造船その他工業が盛んです。

駒 函館から函館本線が起つて北に向かひ、小樽・札幌を経て旭川に達します。その沿線には、駒岳や羊蹄山などの火山がそびえ、

いづれもその附近に美しい風景をくりひろげてゐます。北海道には、千島火山帯と那須火山帯とが通つてゐるので、火山が多く、殊に、半島部にはいたるところに火山があり、火山にともなつて湖や温泉があります。

小樽は後に石狩平野をひかへ、活気のある商業地で製罐工業が盛んです。室蘭へは、室蘭本線が通じてゐます。この線は、函館本線から分れ、太平洋岸に沿うて東へ向かひ、室蘭、苫小牧を経て、岩見澤で再び函館本線に合します。室蘭には大きな工場があつて、鐵工業が盛んに行はれてゐます。

豊かな水産 寒流と暖流とが流れてゐる北海道の近海は、世界的な大漁場です。にしん、さけ、ます、たら、かに、こんぶなど寒流の海に多いもののほか、いわし、いか、まぐろなど暖流性のものも多いの

です。さけやますは、各地の川でもたくさん取れます。

北海道は、西の半島部の沿岸がいちばん早く開けましたが、それは、この方面へ本州から漁業に出かける人が多く、漁港も發達したからです。そのうち、他の海岸地方が次第に開け、さらに奥地へと開拓が及んで行つたのです。

函館、小樽、室蘭の三大港を始め、どの港もすべて漁業の根據地となつてゐます。毎年漁期には、本州から北海道へ出かせぎに行く人たちがたくさんあります。沿岸各地で取れた水産物は、大部分がいろいろな製造物として各地へ送られます。



樺太も、北海道と同じやうに水産業が大切な産業であつて、にんたらさけますかにこんぶなどがたくさん取れ、それらの製造物を多く産出します。北海道の水産業について述べたことは、大體樺太にあてはまります。

石狩平野と十勝平野 開拓の當初、非常に困難であつた北海道の農業も、その後一大發達をとげ、氣候に適したいろ、いろな農産物がたくさん取れるやうになりました。その初め栽培することのできないものとされてゐた米が、今ではほとんど全島にわたつて作られ、産額がいちじるしく増加しました。また、燕麥、小麥、じゃがいも、豆などを多く産するほか、はつか、亞麻、除蟲菊、甜菜のやうな特産物が多く、半島部ではりんごが栽培されてゐます。

石狩平野は最もよく開け、石狩川上流の上川盆地とともに米の

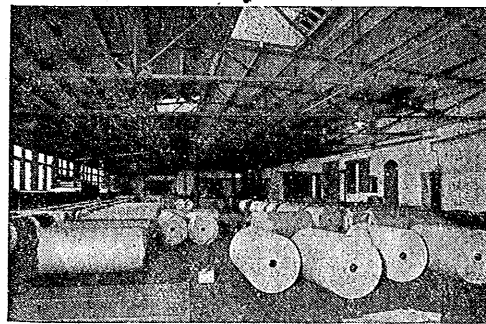
主産地であり、十勝平野は、蝦夷山脈の東側にある代表的な平野で、鐵道が石狩平野と相通じるやうになつて以來大いに發展し、豆、甜菜、亞麻などがたくさんできます。札幌旭川帶廣は、それぞれこれら農業地の中心地として、農産物を原料とする工業が興り、札幌ではビール、亞麻製品、でんぶんの製造、旭川では製粉、帶廣では甜菜糖の製造が行はれてゐます。また、北見地方にも、はつかその他の農産物を多く産します。

石狩平野の東には、大きな炭田があります。筑豊炭田に次いでたくさん石炭を産出し、水力の利用と相まつて、北海道の工業の發達にたいそう役立つてゐます。この石炭は、室蘭、小樽の港から他の地方へもたくさん送られてゐます。そのほか、釧路附近には釧路炭田があり、また所々に金、鐵、硫黄などを産します。

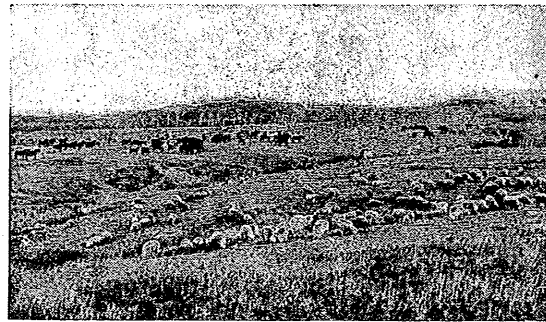
石狩平野は、北海道中、人口がいちばん密で産業が発達し、本島の文化・交通の中心地であります。札幌は北海道廳のあるところで、人口二十萬、一體に道幅が廣く、市街がよくととのつてゐます。西の郊外に札幌神社があります。

函館から札幌を経て旭川に至る函館本線は、旭川から稚内に至る宗谷本線に連なり、本島の縦貫線となつてゐます。また瀧川で函館本線に分れて狩勝峠を越え、帯廣釧路を経て根室に達する根室本線は、東西のれんらく線として大切です。

森林と牧場、北海道には寒い地方に適するえぞまつとどまつなどの天然林が廣



製紙工場



北海道の牧場

く分布してゐます。これらは、パルプの原料として大切な木材であり、従つてパルプ・製紙工業が発達し、各地にその工場があります。中でも苫小牧・江別・釧路には、大きな製紙工場があつて、盛んにパルプ・洋紙を作つてゐます。北海道は、樺太とともにわが國の洋紙の主産地です。

北海道の産業の一つとして、牧畜もまた非常に盛んです。わが國でも他にほとんど見ることもできない廣々とした原野があり、飼料としての燕麥や、牧草もよく育つので、馬や牛の牧畜に適し、特に、南東部の太平洋方面は牧馬の中心地で、馬市も各地で

開かれます。石狩平野には乳牛が多く、札幌では乳製品の製造が盛んです。この平野には羊もたくさん飼はれてゐます。

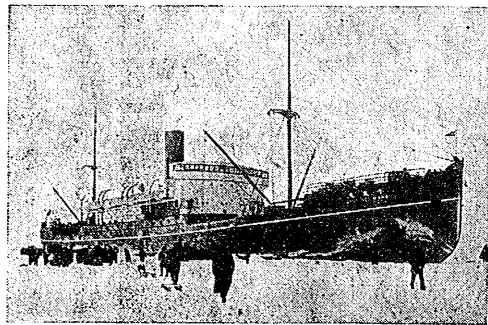
千島列島 千島列島は、北海道本島とロシア領のカムチャッカ半島との間に連なつてゐる、たくさん島の島々です。この列島は千島火山帯に當つてゐるので、どの島も大體けはしい火山島です。氣候が寒く、住民も少く、農業に適してゐませんが、近海にさけます。たらかになどがたくさん取れますから、漁業はなかなか盛んです。そのため、かんづめ工業も興つてゐます。夏は、漁業のためにこへ来るものが少くありません。またその位置が、北太平洋におけるロシア及びアメリカ合衆國の領土に近いので、國防上非常に大切なところ です。

樺太の入口 北海道の稚内から鐵道れんらく船に乗ると、八時

間で樺太の大泊に着きます。鐵道は大泊から起つて鈴谷川沿岸の平野を北へ向かひ、豊原を通り、オホーツク海岸に沿うて知取をすぎ敷香へ達する線と、真岡を中心にして日本海岸を通る線とがあります。この南北の二線をつなぐものに、豊原・真岡間の線があります。

南部の鈴谷川沿岸の平野は、樺太では土地の開けたところで、燕麥・じゃがいも・甜菜などを産します。この平野を始め、各地に養狐業が行はれ、毛皮を産します。

平野の中心地豊原は、樺太廳のあるところで、市の東部にある岡のふもとに、樺太神社があります。大泊は、内地との交通上大



大泊の氷上荷役

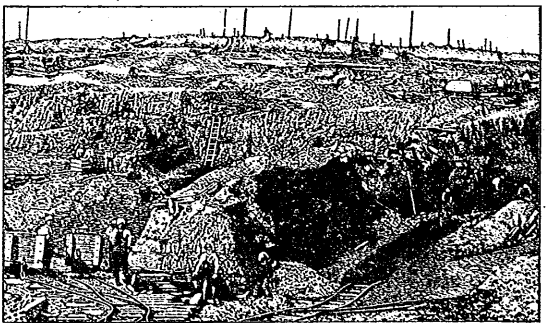
切な港ですが、冬は港が凍るので、砕氷船を使用してゐます。豊原をのぞいた樺太の主な都市はみな港で、それぞれ漁業の中心地となつてゐます。樺



太の沿岸が、冬凍るの不便ですが、西海岸の南部には、暖流の関係で眞岡本の斗の不凍港があります。

盛んなパルプ工業

山地から平野にかけて、土地の大部分がえぞまつとどまつな



樺太の炭坑

どの大森林におほはれてゐる樺太は、木材が大切な富源であります。木材のままで内地へ送られるものも多いのですが、主としてパルプ工業の原料に使用され、樺太は實にわが國第一のパルプ・洋紙の産地であります。都市といふ都市に、すべてパルプ及び製紙工場があり、その製品はたくさん内地へ送られます。

パルプ・製紙工業と水産業とが、樺太の最も主要な産業ですが、なほ樺太山脈には炭田が廣く分布し、恵須取附近をはじめ、所々で掘り出されて、石炭の産額は近年いちじるしく増加してゐます。

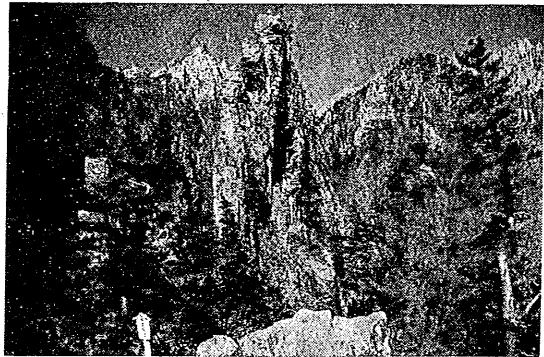
十一 朝鮮と關東州

朝鮮と關東州とは、ともに滿洲の南に續く大陸の一部ですから、日本列島とくらべて氣候も大陸性で、寒暑の差がいちじるしく、雨はいつばんに少い方です。

朝鮮は、約一千キロにわたつて南北に長い半島ですから、南部の海岸地方は溫和ですが、北へ行くにつれて冬の寒さがきびしくなり、北部では、川も凍ります。

朝鮮では、長い間森林を伐り荒したため、はげ山が多く、それだけでも、内地とはたいそうちがった風景です。大水や、びでの害がだんだん大きくなつて行つたので、近年は、各地で植林が行はれてゐます。ただ北部の鴨綠江・豆滿江の流域には、寒帶性の大森林が

あります。



金剛山

朝鮮半島は、南から北へ行くほど土地が高まり、北部は廣い高原で、國境には白頭山といふ火山が高くそびえてゐます。火山の少い半島では、めづらしく大きなものです。

山脈が半島の東側へかたよつてゐますから、日本海沿岸は山地が海にせまり、そこには、海にのぞんで岩山の群がそそり立つ金剛山のやうな勝地もあります。が、平地にとぼしく、交通が不便で、産業もいつばんに發達してゐません。

これに反して、西の黄海方面と、南の朝

鮮海峽方面には、大きな川々があつて、各地に平野が分布してゐます。海岸線の出入が多く、附近に大小無數の島々があつて、よい港があり、交通や産業が開けて都市も發達してゐます。これらの點で、日本海沿岸とは非常なちがひです。

しかし最近では、日本海沿岸でも北の清津・羅津・雄基などの港は、この方面の鐵道と滿洲の鐵道とがれんらくしたため、滿洲の日本海方面の出入口として利用されるやうになり、附近の産業も活氣づいて來ました。

かやうに朝鮮半島は、その背後に續く大陸との關係が大切であり、わが本土と大陸とを結ぶ半島の役目は、いよいよ重要になつて行きます。その上、近年大工業がしきりに興り、道路もまた片はしから改められて行くので、半島には、昔とちがつた新しい生氣が見られるやうになりました。

人口は約二千四百萬で、そのうち内地人は約六十萬です。

遼東半島の先端部を占める關東州は、滿洲の入口で、軍事上、交通上の要地を占めてゐます。

人口約百四十萬のうち、内地人は約二十萬です。

釜山から新義州まで、下關から鐵道れんらく船に乗ると、七時間半で、半島の入口釜山に着きます。鐵道は、釜山から起つて北へ向かひ、大邱・京城・平壤を通り、新義州から、鴨綠江の鐵橋を渡つて、對岸の安東に着き、ここで滿洲の鐵道にれんらくします。釜山・京城間を京釜本線、京城・安東間を京義本線といひ、半島をたてに貫ぬく幹線であります。京釜本線の大田から分れて、本浦へ行く湖南本線も主な鐵道です。また別に、京城から日本海沿岸の元山・咸興・羅

南を通り、會寧を経て、滿洲の鐵道とれんらくする線も大切で、

京釜、京義兩本線及び湖南本線の沿線一帯に連なつてゐる南部西部の平野は、半島中最も人口が密で、都市もたくさんあり、産業もよく開けてゐます。

南部と西部の平野 半島の南部と西部の平野は、農業のたいそう盛んなところだ。農業は、昔から朝鮮第一の産業で、住民の大部分がこれに従事し、米、麥、大豆、粟などが主な農産物だ。

米は、中部以南の平野に多く産し、特に近年は水田が大いにひらけ、米の品質も改良されて、内地米と同じやうなよい米が取れるやうになりました。大邱、大田を始め、京釜本線や湖南本線に沿ふ都市では、皆、米の取引が行はれ、釜山、群山、仁川などから、内地へ盛んに積み出されます。

麥と大豆は、廣く半島の各地に産し、大豆は、主に仁川からたくさん内地へ送られます。粟は、北部の平野に多く作られ、朝鮮では米に次ぐ大切な食物となつてゐます。

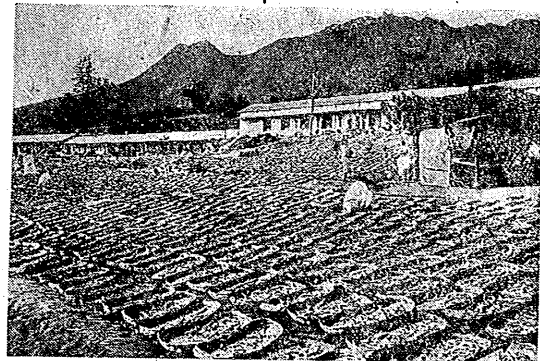
南部中部の平野に多く栽培されるものに、綿があります。近來、いろいろの改良が加へられて、次第にその成績をあげてゐます。木浦は、内地への綿の積み出しが盛んなところだ。

南部から中部にかけては、養蠶業が發達して、まゆの産額が年々多くなり、それにつれて製絲業も所々に興つてゐます。たばこもこの方面に多い産物だ。

人蔘は、昔から半島の特産物として名高く、開城附近は、栽培の中心地であるばかりでなく、上等のものを産します。果物では、りんごが廣く半島の各地で栽培されますが、殊に北部が盛んです。

朝鮮の農業にとつて、牛はなくてはならない大切な家畜となつてゐます。性質がおとなしく、たいそうよく働きますから、いたるところに飼はれ、その頭数は内地とほとんど同じぐらゐです。各地に牛市が立つて取引され、近年朝鮮牛は、内地の農家でもたくさん使役するやうになりました。

半島の主な都市は、たいてい南部西部の平野にあつて、鐵道の幹線に沿ふものがあるひは港です。半島第一の貿易港である釜山は、人口二十五萬、内地との交通の要地に當り、また漁港としても活氣があります。



人蔘のかんさう

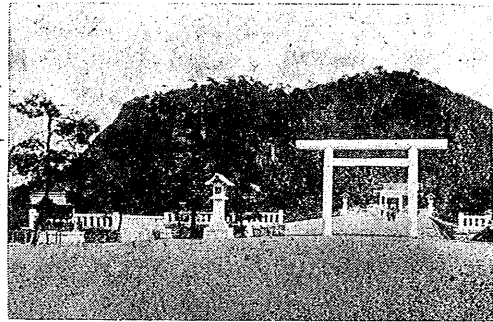
朝鮮の近海は、漁業がたいそう盛んで、内地人の出漁するものが多い、各地に漁港があります。釜山はその主なものの一つです。また、この地では、綿絲や陶器が製造されます。釜山の西にある鎮海は、朝鮮海峽にのぞむ海軍の要港です。

釜山の北にある大邱は、京釜本線中の大きな都市で、農産物の取引の盛んなところです。朝鮮では、各地に定期の市場が開かれ、農産物や日用品などが取引されてゐますが、中でも大邱と京城の大都市は有名なものです。

京城は漢江の下流に沿うた盆地にあつ



大邱の大都市



朝鮮神宮

て、人口は九十萬をこえ、半島第一の大都市です。朝鮮總督府を始め、主な役所、學校、銀行などが集つてをり、また半島の交通の中心地で、商工業も年々盛んになつて行きます。市の南部の岡には、朝鮮神宮がおまつりしてあります。仁川は、京城の港の役目をつとめ、釜山に次ぐ朝鮮第二の港で、滿洲や支那との貿易が盛んです。

鑛山と工業 朝鮮には、いろいろの鑛產物が出ますが、そのうち主なもの金、鐵、石炭で、いづれも中部以北の地方に多いのです。

金は、半島の北西部の山地で多く掘り出され、最近その産額が非

常に増加してゐます。鎮南浦では、金の製鍊が行はれます。兼二浦の南の山地には、大きな鐵山がいくつもあつて、鐵鑛は兼二浦の製鐵所で製鍊されるほか、八幡の製鐵所へもたくさん送られます。石炭は、平壤附近が主産地で、工業に大切な良質の無煙炭を産します。金や鐵鑛の産地に近く、石炭の利用に便利な平壤附近では、金屬の製鍊を始め、いろいろな工業が行はれてゐます。従つて、平壤は近年非常に發展し、今や人口約三十萬、京城に次ぐ朝鮮第二の大都市となりました。

北部の高原地方には、所々に大きな水力發電所ができ、その電力によつて、興南を始め北東部の海岸地帯では、所々に新しい工業が興つてゐます。また、鴨綠江の下流をせきとめる大規模な發電所の建設も近く工事が完成するはずで、將來この地方の工業の發達

はますます有望です。

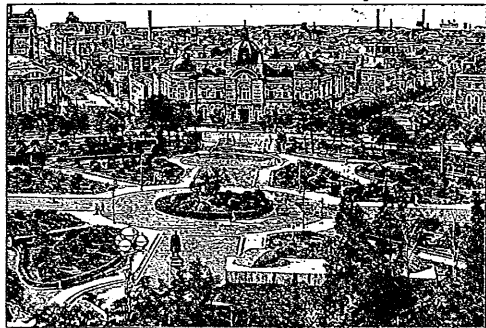
この北部の工業に對して、半島の南部では、原料の關係から所々に紡績や製絲が行はれ、また中部では、京城附近を中心にしていろいろな工業が盛んで、今では工業は、農業に次ぐ朝鮮の大切な産業となつてゐます。

關東州 關東州は、面積からいへば、ちやうど鳥取縣ぐらゐですが、その位置が、滿洲や支那に對して非常に大切なところであることに注意しなければなりません。

州内には、いたるところ傾斜のゆるやかな岡が起伏してゐますから、平地が少いのです。しかし、海岸線の出入が多く、各地に灣があり、大連旅順の二港もそれぞれの灣にのぞんでゐます。

冬は海岸がたいてい凍りますが、大連旅順は不凍港です。雨が

少く晴天が続きますから、沿岸各地の砂濱では、天日を利用する製塩が盛んで、たくさん内地へ送ります。平地は少ないながら、農業はよく行はれたうもろ、こしかうりやん落花生などを産します。工業も、大連を中心として近年非常に發展し、いろいろな工場がありますが、これは、この地が原料や製品の輸送に便利だからです。關東州が交通上すぐれた位置にあることは、大連がこれを代表し、また軍事上大切であることは、旅順がこれをよく物語つてゐます。



大連の市街

大連は人口六十六萬で、關東州廳のあるところ、關東州の

大きな都市は、いはばここだけで、滿洲の表玄關にあたる海陸交通の要地を占めてゐます。滿洲の大豆・豆かす・石炭・鐵礦などは、ここを経てわが内地へ積み出され、内地からの機械・織物・麥粉なども、ここを経て盛んに滿洲へ送られます。港の設備がよくととのひ、わが内地を始め、朝鮮・支那などの諸港との間に、船の往來がひんばんです。大連は、滿洲をたてに通る鐵道の幹線の起點であり、また内地から滿洲や北支那へ行く航空路に當つてゐます。旅順は、港の口が狭く、後は山にかこまれた自然の要害で、わが海軍の要港となつてゐます。附近一帯は、日清・日露の兩戰役に名高い戰跡であつて、高く低く連なる一つ一つの岡は、わが將兵の尊い血に染まつたところ です。

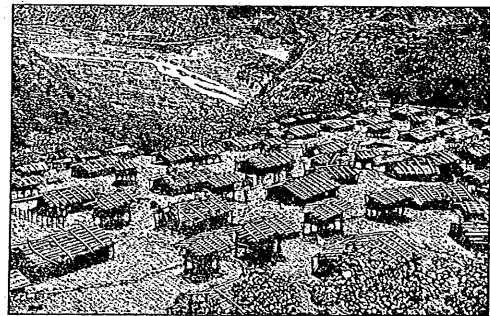
十二 臺灣と南洋群島

日本列島のいちばん南にある臺灣は、熱帶に近い氣候のところ で、夏の氣溫は内地とあまり變りませんが、冬は非常に暖かく、季節の變化が内地のやうにはつきりしません。

氣溫が高く、雨が多いので、樹木はよく茂り、熱帶性のいろいろな天産物に恵まれてゐる上に、わが國の領土となつてから、産業がいちじるしく進んだので、産物が豊かになりました。この島は、もとにわが南方の寶庫といふ名にふさはしいところです。一方、臺灣は、對岸に支那本土をのぞみ、南にわが國力の日々にのびゆく熱帶の諸地方をひかへてゐますから、軍事上、交通上、今後ますます大切なところとなるでせう。

人口は約六百萬ですが、その大部分は本島人で、内地人は三十萬あまりです。原住民は十餘萬あつて、多くは山地に住んでゐますが、平地に住むものもふえ、また教育も次第に進んで來ました。

南洋群島は、日本列島の南赤道に近い熱帶の大海原に廣くちらばつてゐる島々で、わが太平洋方面の國防上の基地として、非常に大切であります。みんな小さな島ばかりですから、数は多くても、その全體の面積は東京府ぐらゐるものです。人口約十三萬のうち、内地人は年々増加して約八萬のほり、原住民は五萬ばかりです。



臺灣原住民の部落

臺灣の西部平野

臺灣では、島をたてに通つてゐる臺灣山脈が、真中よりも東の方へかたよつて連なつてゐますから、西側には大きな川々があつて、それらの下流の平野は、海岸に沿うて續いてゐます。これと反對に、東側は山地が急に海にせまつてゐるので、平野が少いのです。このやうすは、朝鮮半島と似てゐますが、ただ臺灣は海岸の出入が少く、附近の島も、臺灣海峡にある澎湖諸島のほかはごくわづかで、しかも西海岸は遠淺ですから、天然の良港が、ほとんどありません。淡水のやうに川口を利用したものや、高雄のやうに海岸に人工で港の設備を施したものなどがふつうで、自然の港としては、わづか基隆があげられるくらいなものです。遠淺の西海岸では、天日による製塩が行はれてゐます。

臺灣山脈から發して西部平野を流れる川には、大きなものも少

くありませんが、川水が季節によつて非常に増減するし、また土砂の堆積が多いので、船の交通にはあまり利用されません。しかし、これらの川から引かれた用水路がいたるところに通じ、また各地に貯水池が作られるなど、川水はよく利用され、農業の發達をうながしました。

西部平野は、農業と商工業が發達し、交通もよく開けてゐますから、本島の住民の大部分はここに集り、主な都市もこの方面に分布してゐます。

米と砂糖と茶 氣温が高く雨の多い臺灣では、農業がよく發達し、本島第一の産業となつてゐます。米とさとうきびの産額がいちばん多く、いづれも西部平野が主産地です。米は年に二回取れ、内地へもたくさん送られます。本島の代表的な作物であるさ

うきびは、主に中部南部の平野に栽培され、嘉義、臺中、屏東を始め、各地に大きな製糖工場があります。砂糖は本島第一の工産物で、近年その産額が大いに増加し、多く内地へ送られます。今ではわが國全體で使用するだけの砂糖を、臺灣で産出するやうになりました。

北部の岡には、茶が盛んに栽培され、臺北その他で精製され、たくさん輸出されます。さつまいもは、年中いたるところで栽培され、米に次ぐ大切な食料です。

このほか、いろいろな熱帯性の果物を産し、内地へたくさん送ら



さとうきびの收穫



バナナ

れます。特にバナナは有名で、臺灣といへば、多くの人が砂糖とバナナとを聯想するほど特色のある産物です。パイナップルもたくさん作られ、盛んにかんづめに製造されます。

臺灣の農業にとつて大切な家畜は、水牛です。からだが強健で、耕作にも、物を運ぶにもたいそう役立ち、殊に、水田の耕作に適してゐます。その大きな角を水面にすれすれに、いういと泳いでゐるすがたや、たんぼのほとりに立つて背に鳥が止つてゐるなど、ちよつと内地では見られない風景です。なほ、豚は肉用として島民の生活に缺くことのできない家畜で、ほ

とんど各戸に飼はれ、その頭数は内地の二倍に近いくらゐります。

臺灣は、近年道路も鐵道も大いに發達し、西部平野には、本島をたてに通じる鐵道の幹線があり、また、その支線もたくさんあります。鐵道の幹線は、基隆から起つて南へ向かひ、臺北を始め西部平野の主な都市を通つて、高雄に達してゐます。

基隆は臺灣の門戸で、内地との交通の最も盛んな港です。附近には、石炭や金の産地があります。

臺北は人口が約三十三萬で、臺灣總督府のある本島第一の都市



水牛



臺北の市街

です。陸上交通の要地であるばかりでなく、航空路の中心地となつてゐます。交通が便利のため、商工業もよく發達してゐます。市の北部には、臺灣神社があります。臺北から南の平野には、新竹、臺中、嘉義、臺南などの都市があつて、それぞれその附近の商工業の中心地となつてゐます。高雄は、北の基隆に對する南の主要港で、ここでは、南方諸地方との交通が盛んです。

高い山々 西部平野から東の方へ行くに従つて、土地は次第に高くなり、南北に連なる山脈がいくつも並んで、けはしい山地をなしてゐます。三千米以上の山が何十とかぞへられるほどあつて、

中には富士山よりも高い山々があり、殊に、高さ三千九百五十メートルの新高山は、わが國第一の高山であります。

熱帯植物の茂る平地から高い山地へ進むにつれて、植物も種類が變化して行きます。山地には廣い森林があつて、大きなひのきや、くすのきなどがいたるところに見られます。阿里山を始め、各地からひのきの良材が盛んに伐り出され、鐵道で平地へ運ばれてゐます。従つて、製材業も各地に興り、中でも嘉義には、大きな製材所があります。くすのきからは樟腦及び樟腦油が製造され、世界的に名高い産物となつてゐます。また、大きな竹を産し、



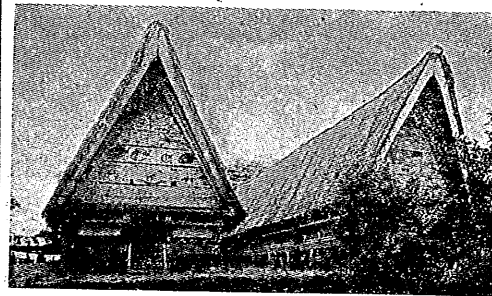
新高山附近

いろいろな材料に使はれる大切な林産物の一つです。
東海岸は平野が少く、交通もまだいづばんに便利ではありま
せんが、北部には基隆からのびた鐵道があり、また花蓮港と臺東との

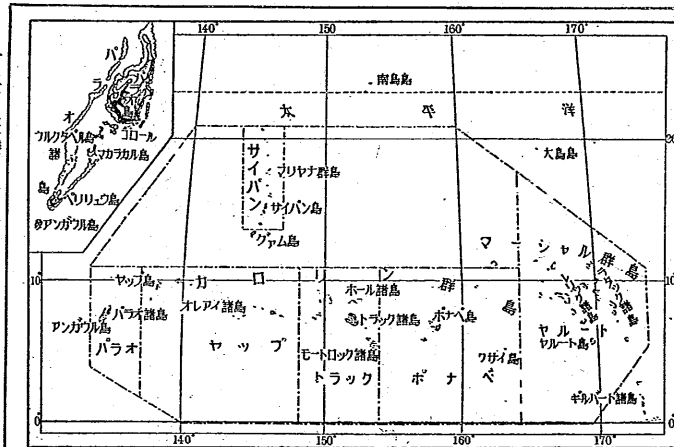
間にも鐵道が通じてゐます。

澎湖諸島 澎湖諸島は、臺灣海峽にある岩
の多い低い島々で、そのうちでいちばん大き
い島が澎湖島です。澎湖島は、海岸線の出入
が多く、西側にある馬公は良港で、海軍の要港
となつてゐます。

南洋群島 わが南洋群島は、カロリンマー
シャル・マリヤナの諸群島から成り立つてゐる
たくさん島々です。



南洋原住民の集會所



十二 臺灣と南洋群島

この群島は、全部熱帯にあります
から、いはゆる常夏の氣候で、四季の
區別がありません。氣溫は年中高
いのですが、いつも海風が吹く上
に雨が多いので、わりあひしのぎや
すいのがいづぱんです。
土地が狭く、かつ平地が少ないので、
もともと産業は發達してゐません
でしたが、わが國が統治するやうに
なつてから、いろいろな産業が興つ
て來ました。中でもさとうきびの
栽培は、近年ますます盛んで、製糖業

はこの群島第一の産業であります。漁業が内地人によつて大いに發達し、かつをぶしがたくさん製造されます。このほか、コブラと燐礦を産し、これらの産物は、いづれも内地へ送られます。主な島々と内地との間には、汽船が往來し、また定期航空路も開かれています。

この群島を治める南洋廳は、パラオ諸島のコロール島にあります。コロール島には、南洋神社がおまつりしてあります。

附 録

府縣名	管轄區域	府縣名	管轄區域	府縣名	管轄區域
東京府	武蔵國の一部 伊豆七島 小笠原群島	茨城縣	常陸國の一部 下總國の一部	水戸市	
神奈川県	武蔵國の一部 相模國	静岡縣	駿河國 遠江國の大部分	静岡市	
千葉縣	下總國の大部分 上總國 安房國	愛知縣	尾張國 三河國	名古屋	
埼玉縣	武蔵國の一部	岐阜縣	美濃國 飛騨國	岐阜市	
群馬縣	上野國	三重縣	伊賀國 伊勢國 志摩國	津市	
栃木縣	下野國	紀伊國の一部			

附 録

宮崎縣	鹿兒島縣	沖繩縣	新潟縣	富山縣	石川縣	福井縣	鳥取縣	島根縣
日向國	薩摩國 大隈國	琉球國	越前國 佐渡國	越中國	加賀國 能登國	越前國 若狹國	因幡國 伯耆國	出雲國 石見國
宮崎市	鹿兒島市	那覇市	新潟市	富山市	金澤市	福井市	鳥取市	松江市
長野縣	山梨縣	福島縣	宮城縣		岩手縣	青森縣	山形縣	秋田縣
信濃國	甲斐國	岩代國 磐城國の大部分	陸前國の大部分 磐城國の一部分	陸前國の大部分 磐城國の一部分	陸前國の大部分 陸奥國の一部分	陸奥國の大部分	羽前國の一部分 羽後國の一部分	陸前國の一部分 羽後國の一部分
長野市	甲府市	福島市	仙台市	盛岡市	青森市	山形市	秋田市	

滋賀縣	京都府	奈良縣	大阪府	兵庫縣	和歌山縣	岡山縣	廣島縣
近江國	丹波國 丹後國の大部分	大和國	攝津國 河内國の大部分 和泉國	攝津國 丹波國の一部分 但馬國	淡路國 紀伊國の大部分	備前國 備後國	備前國 備後國
大津市	京都市	奈良市	大阪市	神戸市	和歌山市	岡山市	廣島市
山口縣	徳島縣	香川縣	愛媛縣	高知縣	福岡縣	佐賀縣	熊本縣
周防國 長門國	阿波國	讃岐國	伊豫國	土佐國	筑前國 筑後國の一部分	肥前國の一部分 肥後國	肥後國 對馬國
山口市	徳島市	高松市	松山市	高知市	福岡市	佐賀市	熊本市

130,21-5-1

附 録

行政廳名	北 海 道 廳 樺 太 太 府 朝 鮮 總 督 府 關 東 州 廳 臺 灣 總 督 府 南 洋 廳
管 轄 區 域	渡島國・後志國・石狩國・天鹽國・北見國・膽振國・日高國・十勝國・釧路國・根室國・千島國 樺太島の北緯五十度以南の地 朝鮮半島及びその屬島 關東州 臺灣島及びその屬島、澎湖諸島及び新南群島 カロリン群島・マーシャル群島及びマリヤナ群島
行政廳所在地	札幌市 豊原市 京城府 大連市 臺北市 コロ ー ル 島

1953.12 編入

昭和十八年二月廿二日 印刷
昭和十八年二月廿四日 發行

(非賣品)

本卷挿入ノ寫眞地圖ハ昭和十八年三月陸軍省ト協議済

著作權所有

著作
者兼
發行者

文
部
省

東京市下谷區二長町一番地
凸版印刷株式會社

印刷者 井上源之丞

東京市下谷區二長町一番地

印刷所 凸版印刷株式會社